

# T M U

Bulletin for Tokyo Metropolitan University Alumni

2016年（平成28年） No.12



首都大学東京同窓会・会報

# Tokyo Metropolitan University

## 同窓会会報 2016年(平成28年) 第12号 目次

巻頭言「自己免疫疾患」	会長 黒石 輯	1						
2016年(平成28年)首都大学東京同窓会 活動方針		2						
2016年(平成28年)首都大学東京同窓会委員会組織と構成メンバー		3						
新任委員長挨拶	企画委員長 河口 修・イベント委員長 横川 邦明	4						
新任理事就任の挨拶	藤田 貴男・横山 英明・安藤 拓哉	5						
評議員に立候補をお願いいたします		5						
評議員就任にあたって	橋本 知佳・鈴木祐美子・清水 徹英・伊藤 洋平	6						
全評議員のご紹介		7						
同窓生はいま		8~11						
「アメリカ シアトル留学記-世界はグローバルかローカルか-」	脇岡厚志(8)、「陽的につながる」	奥村直人(8)、「ステップアップの毎日を過ごしたい」	横田かほり(9)、「初めての海外留学 日本」	ハンバン クオン(9)、「中年前座が楽屋で学んだこと」	立川寸志(本名 小田部信英)(10)、「子ども家庭支援センターの役割」	横関恭孝(10)、「リタイア後に無農薬で農作業」	中村宣男(11)、「OBが共同所有する山荘を楽しむ」	戸辺文博・遠藤 洋(11)
特別寄稿 前震から3ヶ月の7月14日	宮脇 利充	12						
熊本地震に想う	岩橋 敏広	12						
2016年度 入試合格者・入学者数		13						
司法試験68校中16位で合格率は19.53%		13						
特別寄稿 伊豆大島と起業家をつなぐ「あんど!大島」第6次産業起業家養成プログラムが開始	諸貫 信行	14						
おめでとうございます		14						
母校はいま		15~20						
2015年度卒業式(15)、2016年度入学式(15)、今年の大阪府大戦は敵地大阪で、14勝16敗1引き分けで惜敗!(15)、横浜市立大学定期戦は南大沢キャンパスで勝利(15)、2015年スポーツ・文化活動賞授与式を開催(16)、第8回ファイティングスピリット賞授与式を開催(16)、第4回プロジェクト奨励賞交付式を開催(17)、Acorn Caféが新規開店(17)、高大連携室が1号館に移転(17)、国際交流センター内の茶室で「ひな祭り」を開催(17)、首都大学東京一時保育施設を開設(18)、国際交流会館中庭にある茶室をご存知ですか?(18)、首都大学東京ボランティアセンターを開設(18)、機械系同窓会(学科同窓会)が設立(18)、細野秀雄氏が日本国際賞を受賞(18)、清水敏男氏が仏芸術文化勲章シュヴァリエ賞を受賞(19)、本学初の養護教諭1種免許取得者誕生~6名が養成課程を終了~(19)、本学の志願者数が大幅に増加(19)、異文化理解講座で箱根バスツアーを実施(19)、日野キャンパス新実験棟(3・4・5号館)の完成により大変貌(20)								
ひな飾り一般公開とひな祭りに関する報告	国際センター特任教授 岡部 豊	20						
機械系の同窓会「機綱会」設立		21						
2016年度(平成28年度)首都大学東京 教員免許状更新講習 開設結果報告		21						
大学事務局からのご報告 平成30年度 首都大学東京の組織再編の構想案		22						
支部だより 関西支部・九州支部・東北支部		24~25						
表紙のことは「埼玉りそな銀行洋館とくらづくり本舗」	普賢寺俊男	25						
八雲クラブで会いましょう	丑山左千男	26						
第43回埼玉八雲会研修会	佐伯 公	26						
第3回プロジェクト奨励賞 TMU-FSC・体験!化学実験実行委員会報告		27						
2016年同窓会寄付講義		28						
同窓会事務局からのお知らせ		29~31						
同窓会総会・交流会・学園祭の報告		31						
第12回首都大学東京同窓会評議員会 議事録抜粋		32						
第12回首都大学東京同窓会総会 議事録抜粋		33						
楽しい同窓会報	東京都立大学名誉教授 御厨 貴	33						
2016年4月1日付首都大学東京名誉教授称号授与者		33						
寄付者ご芳名と寄付金受領のお礼		34~35						
訃報		36						
TMUプラザ		37						
八雲三六会(都9期・理・化同期会)(37)、ご存じですか、江戸小彼岸桜?(37)、第四回 都立大学・学生交流会の集いを開催(38)、硬式庭球部の恒例「OLD・OB・OG会」の開催(38)、八雲カフェバー「行くところがある」「会う人がいる」(39)、八節会(体育会弓道部OB会)について(39)								
首都大学東京同窓会 会計報告		40						
TDS(株)都立大学同窓会サービス)第31期会計報告		表3						
2017(平成29)年 首都大学東京同窓会 新年会・講演会		表4						



写真上から南大沢キャンパス  
1号館・光の塔  
日野キャンパス  
科学技術交流施設  
荒川キャンパス  
校舎棟

## 自己免疫疾患

首都大学東京同窓会 会長 黒石 輯

今年も1300余名の新会員を迎えた。新会員の方々が、同窓会の各種行事に積極的に参加され、若い感性を同窓会活動に反映させていただくよう期待している。

今年は大塚周辺に孟宗竹が大繁茂し、近隣の方々の力もお借りして、伐採等に大わらわだったらしい。ウリ坊の出没もあるやにお聞きしているし、古き良き里山の雰囲気は漂っている気がする。

このたび母校の学部名が変更されることになった（詳細は22ページをご覧ください）。『都市教養学部』という名称は、一般からは首を傾げられ、学生に不評であるにもかかわらず、その名称に固執する頑なさについて大学側と激論したことがあるだけに、感慨もひとしおのものがある。

昨年末、両肩・首筋さらには両手・両足に激痛が走るという病魔に襲われた。あまりの痛さに衣服の脱着に数十分を要し、歩行や箸の持ち上げもままならないといった病状に陥った。

医者曰くは「病名は『リュウマチ性多発筋痛症』。いまだ原因は不明。50才以上の日本人の罹患率は10万人に15人。比較的活動的な高齢者の発症が多い。」

幸いに的確な処方のおかげで、今では通常生活は無理なく送れるようになってきている。

ところで、病気の原因が不明だというのが気にかかり、素人向けの関係書をいろいろ漁ってみた。無駄ではあったが、ある記述が目にとまった。「外部からの異物を攻撃し排除する細胞が、何らかの要因で自己の正常な細胞を攻撃します。」という自己免疫疾患に関する説明であった。

会員の皆さんには先刻承知の説であろうが、その方面に無頓着で過ごしてきた私にとっては新鮮な思いがした。

同じ目的を持った人間集団の中で内部抗争が起きる。この不条理さと同じような現象を人体の細胞が引き起こしていることに興味をそそられた。

「ブルータス、お前もか！」と絶叫するシーザーを想うまでもなく、歴史は幾多の内部抗争や反乱を記してきた。今年の米国大統領選挙や東京都知事選挙に関しても、自己免疫疾患に類した状況が報道されていたのを思い出す。

医学は神祕のベールを一つひとつ剥いできた。人間集団はどう進化してきたのだろうか。いずれにしても、自己免疫疾患が病魔となって発症するような事態は避けたいものである。

去る11月5日に大学祭・ホームカミングデーに併せて同窓会総会・交流会を開催いたしました。多数のご参加をいただき、ありがとうございました。

## 2016年(平成28年)首都大学東京同窓会 活動方針

### 重点活動方針

1. 大学との連携強化
  - ・大学の施策、課題への同窓会の取り組み
  - ・学生支援の充実
2. 財政の健全化
3. 全ての卒業生のより一層の一体感の醸成、融合

重点活動方針を踏まえ、各委員会は以下の方針で活動を行う

委員会名	活 動 方 針
総 務	1. 大学との連携を強化するため、大学の施策・課題に対し積極的に対応する 2. 学生の支援策として、寄付講義の充実、各種表彰の充実を図る 3. 評議員会のキャンパス開催を実施する ・2016年荒川キャンパス 2017年日野キャンパス 4. 理事会・評議員会等の運営に際し、ペーパーレス化を進める
企 画	1. 大学との連携を強化していくために、同窓会の窓口としての役割をより積極的に果たす ・大学の情報収集、意見交換を積極的に行い、その情報を同窓会にフィードバックする 2. 学生支援の充実という視点から、「賞」の見直し及び充実を図るとともに、新たな支援策を検討する
広 報	積極的に情報発信をしていく。大学との連携も行う 1. 会報（臨時会報を含む）の編集、発行 2. ホームページへの情報発信 3. 新入生向けの同窓会紹介誌の発行 4. ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の活用検討 5. その他の情報発信
組 織 整 備	1. 各支部活動の強化と支部との連携推進 ・山陰支部の設立 ・群馬支部の第2回総会の実施 ・東北支部の再開の可能性検討 2. 各種同窓会組織（シンガポールなど海外組織を含む）の同窓会HPへの登録推進（情報管理委員会と連携）
財 務	1. 収入（入会金、維持会費、寄付金）の増加策の検討・実施 2. 支出の削減可能対象項目の検討・実施 3. 他の委員会との協業による収入・支出の効率化の検討・実施 4. 他大学同窓会との財務面での情報交換の実施
イ ベ ント	1. 総会、交流会、新年会、講演会の計画及び進行 2. 大学主催のホームカミングデーの応援 3. 若い世代層のためのイベント促進 ・ビジネスの場で活躍中の同窓生との交流の促進
八雲クラブ	1. 八雲サロンの更なる充実 ・多様な講師の確保や参加者増大をめざす 2. 第2八雲サロンの新規開催（第4水曜日の八雲カフェバー）2月より実施 3. 同窓会と現役学生の交流の場として八雲クラブの活動内容の見直しと実施 4. 八雲クラブ会員の増加と利用率拡大のための広報活動の強化 5. ホームページと連携を強め、積極的に入会希望者等を取り込む
情 報 管 理	1. 海外ネットワークの立ち上げおよび整備（組織整備委員会と連携） 2. 同窓会HPを通じてのより有効な情報発信の在り方の検討（広報委員会と連携） ・当面の目標として同窓会HPとフェイスブックのリンク

## 2016年（平成28年）首都大学東京同窓会委員会組織と構成メンバー

2016.08.17改正

委員会名	正副委員長	理事
総務	委員長 林 正弘 (都14経済) 副委員長 澤井 泰 (都07法学)	稲野 久智 (都54史学) 榎本 昌史 (科07機械) 西形 勝宏 (医01放射)
企画	委員長 河口 修 (院工20電気) 副委員長 森 忠保 (都14物理)	大石 不二夫 (都11工化) 黒川 信 (都28生物) 西形 勝宏 (医01放射) 光藤 康子 (都11社会)
広報	委員長 黒川 信 (都28生物) 委員 野原 剛 (都04化学)*	芦沢 清隆 (都17建築) 加藤 充子 (都09経済)* 稲野 久智 (都54史学) 村山 祥彦 (都05経済)* 小原 弘道 (科03機械) 畠山 久 (都54地理)* 久崎 力 (都09電気) 齋藤 夕子 (医07地域) 関根 紀夫 (医01放射) 畑 純一 (保06放射) 根谷崎 武彦 (都10化学) 藤田 貴男 (都44機械) 横山 英明 (都43化学)
組織整備	委員長 荻原 信吾 (都24仏文)	安藤 拓哉 (科12電子) 石原 恵一 (都33土木) 丑山 佐千男 (都22政治) 榎本 昌史 (科07機械) 澤井 泰 (都07法学) 千代鳥モーションウッデン (都24工化) 林 正弘 (都14経済) 横山 英明 (都43化学)
財務	委員長 吉田 俊雄 (都19数学) 副委員長 石館 陸男 (都12機械)	石井 陽介 (首2009法律) 高橋 誠 (都20経済)* 久保 義丸 (都42法律) 原田 康生 (首2010法律)
イベント	委員長 横川 邦明 (都24機械) 副委員長 関根 紀夫 (医01放射)	石館 陸男 (都12機械) 小野 修一 (都34法律)* 稲野 久智 (都54史学) 滝口 亨 (都26数学)* 榎本 昌史 (科07機械) 鷺尾 悟 (都56電気)* 小原 弘道 (科03機械) 末光 正忠 (都20心理) 久保 義丸 (都42法律) 黒川 信 (都28生物) 松本 公一 (科05機械)
八雲クラブ	委員長 丑山 佐千男 (都22政治) 副委員長 水津 まき子 (都20社会) 副委員長 佐田野 渉 (都29法律)*	荻原 信吾 (都24仏文) 《運営担当》 千代鳥モーションウッデン (都24工化) 池田 敬二 (都42社会)* 中村 直英 (都25法律) 石井 光一 (都28経済)* 藤田 貴男 (都44機械) 大林 清一 (都25生物)* 中澤 勲 (都12電気)* 本橋 唯弘 (都19政治)*
情報管理	委員長 千代鳥モーションウッデン (都24工化)	小原 弘道 (科03機械) 久崎 力 (都09電気) 松本 公一 (科05機械) 吉田 俊雄 (都19数学)

(注 \*理事以外の委員)

株式会社 都立大学同窓会サービス (略称TDS)		2016.03.16改正
代表取締役	河口 修 (院工20電気)	
取締役	杉村 哲雄 (都12法学)	横川 邦明 (都24機械)
	中村 直英 (都25法律)	久保 義丸 (都42法律)
監査役	松本 傳 (都07経済)	吉田 俊雄 (都19数学)

# 新任委員長挨拶

企画委員長 河川 修 (都20・工・電気院)

イベント委員長 横川 邦明 (都24・工・機械)

この度、企画委員長に選任されました河川修です。

企画委員会に入る前は、企画委員会は評議員会、同窓会総会の書記とファイティングスピリット賞の取り纏めを行う処というイメージを持っていました。

本来、企画という言葉は英訳するとプロジェクトに相当し、将来への計画を立てることを意味します。

つまり、企画委員会は将来の同窓会の目標を会員各位に考えて頂き、将来のあるべき方向を検討するのが本来の姿ではないか、と考えます。

私は中小企業の顧問をしておりませんが、将来の目標を持っている企業は経営者や社員の目の輝きが違います。

企画委員会も若い同窓会会員の目の輝きが増える組織に工夫を凝らしたい、と考えております。

会員の皆さまと同窓会の将来を考えて行きましよう。

首都大学東京同窓会理事の横川邦明と申します。この度、イベント委員会の委員長を仰せつかりました。イベント委員会は総会、新年会、懇親会等といった主だった同窓会行事の準備等を行う委員会です。微力ながら精一杯頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

のと考えます。重要なことは卒業生同士がお互いに助け合うという思いを個々の卒業生が常に持っていることだと思えます。

私は以前、弁理士会の関東支部の幹事を担当しました。その際、他の大学の卒業生とペアを組んで外回りをしたことがあります。そのとき、特に私立の大学の卒業生は互いの連携が非常に強いという印象を受けました。首都大学東京の卒業生も強い連携で繋がることができそうですようにお手伝いさせて頂きたいと思えます。



河川 修  
かわぐち おさむ  
オーエス・ワールド代表  
三菱電機(株)を経て十年間中小企業への技術支援を行ってきた。現在、首都圏の中小企業3社の技術顧問を兼務。  
柏市沼南商工会理事、経産省ミラサポ専門家に登録。



横川 邦明  
よこかわくにあき  
1976年3月東京都立大学工学部機械工学科卒。同年4月大手電子部品会社入社。81年3月知的財産事務所勤務。86年弁理士登録。89年9月独立(特許事務所設立)。独立以来大手企業、中小企業、個人の知的財産に関する相談及び代理を行う。

# 新任理事就任の挨拶

藤田 貴男 (都44・工・機械)

この度、理事会よりご推薦を頂き、理事に就任いたしました藤田貴男と申します。

藤田 貴男  
ふじた たかお  
博士(工学)・知財プロデューサー。明石工業高等専門学校卒。NTTデータ(金融システム開発)、トヨタ中央研究所(次世代エンジンの研究)、大阪大学特任助教、産総研(イノベーション戦略担当)を経て、2015年に特許事務所日本知財サービスを開業(所長・弁理士)。

諸先輩方や在学生の皆様にも少くも貢献できるよう、また活気ある有益な同窓会になるよう、そして長い間私の成長を支えてくれた大学に恩返しできるように、お手伝いさせて頂ければと存じます。

若輩者ですが、どうぞ宜しくお願ひいたします。

横山 英明 (都43理・化学)

この度、首都大学東京同窓会理事に就任しました横山 英明です。広報委員会及び組織整備委員会に所属しております。諸先輩方のご指導のもと首都大学東京の発展のために微力を尽くしていきたいと思ひます。

私は、旧東京都立大学が南大沢キャンパスへ移転した1991年度に入学しました。それから約25年が経ち、同窓会や学会等の際にキャンパスに立ち寄ると在学当時と比較して賑やかになっており、喜ばしく思ひます。

同窓会は、卒業生にとってはお互いに助け合う同窓の人間関係を築く場であり、在学生にとっては実社会(先輩)に接することができる場です。最近ではSNSで気軽に「友だち」を作ることができますが、このようなネット時代だからこそ「実際に会える同窓会活動」は貴重な機会を与えてくれるものです。同窓会の

今後は、旧各大学を構成していた各キャンパスをできる限り訪ね、また、旧各大学の卒業生間の交流を中心に一つの大学としての広報及び組織整備に努めることを目標にしたいと思ひます。

ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

安藤 拓哉 (科技大12・電子)

このたびご推薦を賜り、同窓会理事に就任しました安藤拓哉と申します。

昨今、SNSが当たり前になっていますが、そこではなつかしい旧友の「今」を知ることができ、便利な世の中になってきました。その反面、自分の交友範囲を超えた「生」の会合の機会が、だんだん減ってきているように思ひます。

在学中に心血注いでいた大学祭の期間中は、自分の歳を10も20も超える諸先輩方が、1升瓶を持って激励に來られ、非常に楽しい時間を過ごしたことが忘れられません。旧科学技術大学(現日野キャンパス)での「楓祭」が2008年で最後を迎えてしまった時は、非常に残念でした。

大学祭は現役生が作るものですが、我々には手の出しようがありません。しかしながら、ホームカミングデーという制度であれば、こういった機会を一部実現できるのではな

いかと考えております。今回の就任を契機に、日野キャンパスを卒業された方々をお迎えする機会が大学祭に代えて実現され、新しい交流の場を提供できれば嬉しいと思っております。

## □評議員に立候補を お願いいたします□

同窓会は、会員の皆様方の参加によって、運営されていますが、全員の参加は、不可能ですので、「評議員」の方々に、会の意思決定に参加していただいております。

そのような重要な役割を持つ評議員ですが、残念ながらご参加いただける方々は少なく、将来、会の運営にも影響が出ることが懸念されます。特に、若い世代の方の参加が少ないことが同窓会にとって大きな課題と考えております。

評議員の方々には、年一回の「評議員会」への出席をお願いいたしております。これによって、同窓会の重要事項の決定に参加していただくのみならず、会員の意見を積極的に理事に伝達していただくことも期待しております。

多くの方々の立候補を期待する次第です。



横山 英明  
よこやま ひであき

1990年福岡県立城南高校普通科卒。95年東京都立大学理学部化学科卒。96年防衛庁入庁。経済産業省出向等を経て15年より、防衛装備庁陸上装備研究所勤務。



藤田 貴男

# 評議員就任にあたって

清水 徹英 (都53・工・機械)

この度新評議員としてご挨拶をさせていただきますことになりました首都大学東京現教員の清水徹英と申します。私は首都大学東京大学院理工学研究科を平成二十三年度に修了し、

は八雲クラブに数回参加させていたぐらい程度でした。卒業から10年が経ち、一つの節目として、同窓会のために何かできないかと思いい立候補させていただきました。

評議員は若い人たちの参加が少ないということ、これをきっかけに私と同じ世代の人たちも入りやすくなると思い込んでいます。まずは自身が評議員として参加して、参加するメリットや働きながら活動

鈴木祐美子 (都56・理・生物)

私は、首都大学東京大学院を修了後、公立大学法人首都大学東京に就職しました。この度、学生時代に生命科学専攻で大変お世話になりました黒川副会長からお声掛けいただき、同窓会の評議員を務めさせていただきましたことになりました。

二年程前に、縁あってご推薦を賜り、同窓会評議員を務めております鈴木祐美子と申します。私は以前私立大学に勤務しておりましたが、母校で働きたい思いから転職し、平成二十七年より首都大学東京の職員として働いております。

一度東京都の公設試験機関に入所した後、再び首都大学東京システムデザイン研究科に戻る機会をいただき現職に至っております。現在は、メインキャンパスとなる南大沢ではなく、日野キャンパスに勤務しております。日野キャンパスでは、昨年の秋に新実験棟が建設され、現在新グラウンドの整備が整えられている状況でございます。メインキャンパスだけでなく、日野キャンパスの現状も現職教員として発信をさせていただければと思っております。また最近では、SNS等を通じて、若い世代間では大きなコミュニケーションが構築されつつあります。このようなコミュニケーションといかにうまく連携させていくかが、今後の同窓会員数の維持に大きな役割を持つものと認識しております。



鈴木祐美子  
すずき ゆみこ



清水 徹英  
しみず てつひで

首都大学東京知能機械システム学域助教。専門は表面工学。在学時のドイツでの企業研修経験を活かし、現在も積極的に海外大学・研究機関との研究交流に取り組む。

評議員としては、まだまだ経験不足の身ですが、多くの先輩方や後輩の皆さんとも協力しながら、大学と同窓会の更なる発展に貢献できよう、精一杯同窓会の活動に参加させていただきます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

伊藤 洋平 (都54・法・政治)

この度、評議員に就任させていただきました。伊藤洋平と申します。

これまで同窓会活動に参加したの



伊藤 洋平  
いとう ようへい

株みんなのまちづくり代表取締役多摩市役所勤務、北京の中国政法大学留学を経て、現在は生涯活躍のまち事業など高齢者向け住宅の企画・運営・コンサルティングを行う会社経営。





# 同窓生はいま

アメリカ シアトル留学記  
—世界はグローバルか—

ローカルか—

脇岡 厚志  
(首都大・大学院理工学研究科4年)

世界はグローバルにつながっているが、それはローカルな市場がパツチワークされたものである。グローバルに活躍するとは、ローカル市場での経験・能力を横展開できるか否かが鍵である。自分は留学を通してそう感じた。

2014年9月から2015年8月までの1年間、自分はアメリカに留学に行った。十ヶ月間は現地の大学に通い、ビジネスを学ぶプログラムに参加し、残りの期間は現地の投資ファンドでインターンを行った。

大学ではビジネスプログラムとあって、MBAのようにグループワークをこなし、例えば、現地のNPO法人をコンサルティングするようなプロジェクトにも関わった。コーヒーチェーンでマーケティングの仕事を行うヒスパニック系、NPOを経営するアフリカ系アメリカ人など、多様なバックグラウンドを持つチームの中で、自分を発揮するには、「日本」というローカルな市場で得た経験・知識・能力を自分の中で一度、普遍化し、「シアトル」という新たな市場へ最適化しなければならなかった。

投資ファンドでのインターンシップは自分が日本人であることのバツクグラウンドを生かし、日本株のリサーチチームで働いた。日本で投資銀行のインターンシップに参加した経験が生きた。

それらの経験を通して思うことは、結局のところ、自分は日本というローカルな市場で得た知識と能力に依

存していたということだ。これは悪いことではないと思うし、実際のところ世界の本質はローカルにあると思う。巷では、「グローバル」という言葉が騒がれているが、それにだまされることなく、「ローカル」を大切にし、理解し、経験し、その経験を次の「ローカル」に生かせれば良いのではないかと留学の終わりに感じた。

陽的につながる

奥村 直人  
(首都大・大学院理工学研究科1年)

二〇一六年、首都大学東京都市教養学部都市教養学科理工学系電気電子工学コースを卒業後、同大学大学院へと進学。

学部四年次に参加した、文部科学省主催「第五回サイエンス・インカレ」という研究発表大会において企業賞を受賞した「次世代の大容量高速無線通信システムの実現へ向けた発振デバイスのに関する研究」をより発展させ、一つの体系に仕上げることを目標に模範解答のない壁へと挑戦を続けています。

例えば大学入学以来、私の日常は色鮮やかな体験に囲まれていました。全国各地から集った友人との出会い。自身で働いて初めて報酬を得た瞬間。右も左も分からないまま、友人と海

外を巡った時の高揚感。学問を追究する中で感じた喜び。すべてが今の私を形成してくれている。それをこれからの社会に繋げていきたい。素晴らしい体験を与えてくれた方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

「自分は社会に何を残せるだろう」と考えられるようになったことも一つの成長の形なのかなと感じています。

私はいかなる時も「学ぶ」ということを大切にしていきたいと考えています。

二〇一一年三月一日に発生した東日本大震災に関して様々な情報が飛び交う中、高校生なりに「安定した社会基盤が築かれ、インターネットの普及により容易に情報の授受が可能となったこの日本で、『学ぶ』ということが疎かになっていくのではないかと」と、「無知」への警鐘を打ち鳴らされたように感じました。

受け身ではなく能動的に触れて初めて情報は堅実な知識に変わり、人々の役に立つものだとということを多くの体験を経て実感しました。

今、当たり前のように見えている世界は実は無数の「未知」に包まれていて、それらと向き合っていくことで見えてくる世界は輝きを増すのではないかと。そのようなことを考え、未来に希望を抱きながら日々を過ごしています。



奥村 直人  
おくむら なおと  
神奈川県立相模原高等学校卒業  
2016年首都大学東京都市教養学部電気電子工学専攻博士前期課程1年

脇岡 厚志  
ひじおか あつし  
2012年3月東京都立町田高等学校卒業、12年4月首都大学東京入学、14年9月米国ワシントン州ベルビュー1カレッジ留学、15年6月米国ワシントン州タイヨーフアンドインターンシップ、15年8月帰国 復学

筆者は左



筆者は左



ハンバンクオン  
ベトナムゲエンフエ高校卒  
ホーチミン大学卒 首都大  
学東京大学院理工学研究科  
入学 機械工学専攻熱学分  
野 角田直人研究室



横田かほり  
よこた かほり  
2009年3月浜松市立高  
等学校卒業、14年3月首都  
大学東京都市環境学部卒  
業、16年3月首都大学東京  
大学院都市環境科学科分子  
応用化学域修了

ステップアップの

毎日を通り越したい

横田かほり

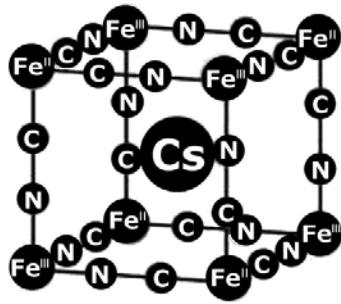
(首都大・分子応用化学域修了)

3月に大学院を卒業し、4月より  
社会人となりました。塗料メーカー  
に就職しましたが、色材の研究をし  
たいと思った原点は、学生時代の研  
究テーマにあります。私はプルシア  
ンブルーという顔料を用いて、放射  
性セシウムの吸着材の開発の研究を  
しており、先輩が漆黒・耀変染めに  
ついての研究をしていました。それ  
以来、色材に対して面白さを感じ、  
興味を持つようになりました。

私は研究を進めるに当たり、他分  
野の方々と関わったり、いろいろな  
場所ですぐ実験装置を使わせてもら  
ったり、すごく恵まれた環境で研究活  
動を行うことが出来ていたと思いま  
す。しっかりとやり遂げないといけな  
いというプレッシャーを感じると同時  
に、やりがいや楽しさも感じていま  
した。この経験から、多方面からの  
意見をどう活かすか、自分の意見を  
どう発するのか、協力して行うこと  
の大切さ、研究だけでなく多くのこ  
とを学びました。

最近では、会社の雰囲気にも慣れ、  
少しずつですが仕事の内容も把握出  
来るようになってきました。毎日

覚えることが増えていき大変ですが、  
この研究が製品改良や新製品の開発  
につながっていくことを考えると、  
ワクワクします。取り組んでいる研  
究の内容や意味をしっかりと理解し、  
今までの経験を活かしながら自分  
が出来たことを精一杯やっていこう  
と思います。この先、壁にぶち当た  
ることも多々あると思いますが、仲  
間と協力して乗り越え、ステップア  
ップしていけるよう頑張っていきま  
す。



プルシアンブルーの構造モデル

初めての海外留学 日本

ハンバンクオン

(首都大・大学院理工学研究科 機械工学)

日本は私にとって初めての海外で  
す。はじめは東京で見ると真新しいも  
のに少し緊張しましたが、教授が助  
けてくださったおかげで首都大学東  
京では最終的にすべてうまくいって

います。私の大学生活は多様な学術  
活動、社会活動で充実しています。  
日本人と他の国出身の友達もたくさ  
んいます。

日本の知見や文化からは日々多く  
の大切なことを学んでいます。首都  
大は勉学に励み研究を行うには非常  
に素晴らしい環境であり、素敵なキ  
ャンパス・完璧な設備はとも快適  
で、私は首都大生であることを誇り  
に思います。

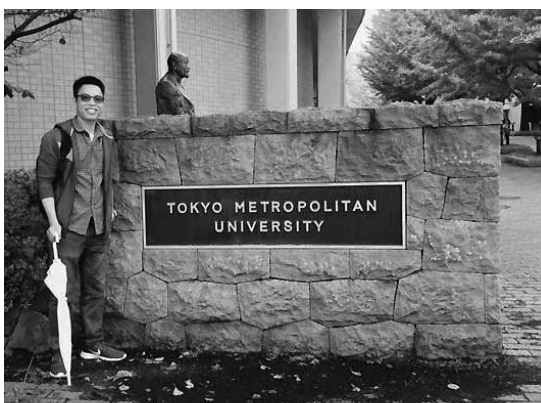
私の研究内容はマイクロ領域の熱  
と物質の輸送についてです。私達の  
研究室では温度の分布を小さなスケ  
ールで解析するために近赤外分光法  
を利用していきます。私が母国のベト  
ナムにいたときはこの研究分野はあ  
まり進んでいませんでした。しかし  
首都大には近代的な実験器具や実験  
設備が豊富にあり、私もスムーズに  
研究ができています。

私の幼いころの夢の一つが日本で  
学ぶことであり、今その夢が実現し  
ています。最近では研究のスピードが  
増ってきていますが、研究室のメン  
バーは様々な場面でサポートしてく  
れます。現在は日本語の授業に参加  
し、なるべく早く日本語の日常会話  
を、さらには学術的な日本語を修得  
することを目指しています。私にと  
って日本語は美しい言語で、今以上  
に私を日本の文化へとつなげてくれ  
る橋のようなものなのです。  
今は全力を尽くして修士課程修了

に向けて良い研究結果を出し、博士  
課程まで勉強を続けたいと考えてい  
ます。その後は日本で機械工学分野  
に関わる職に就きたいです。日本は  
世界でも最も高い科学技術をもつ国  
の一つで、エンジニアにとっては適  
した労働環境といえます。

ベトナムと日本の関係は少しずつ  
良くなっています。私はベトナムと  
日本の架け橋になりこの関係をより  
良くしたいです。より多くの奨学金  
や交流プログラム、相互の協力がベ  
トナム・日本の両国にますます多く  
の機会をもたらしてくれると思いま  
す。

「原文は英文・翻訳・中村 芽莉(人  
間健康科学研究科ヘルスプロモーション  
サイエンス学域修士1年) 山本 彩華  
(理工学系生命科学コース4年)」



## 中年前座が楽屋で学んだこと

立川 寸志 本名 小田部信英  
(都38・史学)

落語家というのはまことに呑気な商売ですが、やはり古典芸能。呑気さの裏に一般社会とは大いに異なる楽屋修業が存在するのです。

立川 寸志  
たてかわ 寸し  
本名 小田部信英  
おたべ のぶひで  
都立立川高校卒業  
1990年東京都立大学人文学部史学専攻(日本近世史)卒業 卒業後ベネッセコーポレーション入社、2011年44歳で立川談四楼に入門して「寸志」。  
15年3月 二つ目に昇進

横関 恭孝  
よこぜき やすたか  
1982年東京都立大学人文学部社会学卒業 同年杉並区役所入庁・現在杉並区子ども家庭支援センター勤務



都立大落語研究会では会長をつとめ、当時の大学落研コンテストでは決勝進出。しかしバブル真っ最中、

落語家になる気は微塵もありませんでした。某出版社を振り出しに数社で編集業を二十年。担当作家として出会った現在の師匠・立川談四楼によって、かつて落語少年だった頃の思いを再沸騰させられ、四十四歳で入門。異例の中年前座の誕生です。

嘶家には、下から前座／二ツ目／真打という階級があります。入門して見習い期間を経て前座修業が始まります。九割九分九厘の前座が高卒大卒の二十代。ここに一人、四十代半ばの中年が飛び込んだわけです。楽屋も一つの人間社会。経験豊富な自分は若くはないがスムーズに順応できると思っていました。しかし

現実には厳しかった！  
まず驚いたのが「あれこれ質問するな」という師匠の教えでした。会社であれば新人には懇切丁寧に指導をし、わからない事があればほとんど

先輩上司に訊ねるよう言われるものですが、楽屋は違います。楽屋の仕事は全て、状況を観察して考えて、動いてシクジって小言を言われておぼえるもの。現場で質問する暇、答える暇はない。そもそも質問することは、自分の頭で考えず相手に考えさせ楽をすることだ——。成程これが伝統芸の考え方かと痛感し茨の道を覚悟しました。私は楽屋修業する自分を「南洋のさる島での文化人類学の調査団の一人」と思い込むことにしました。そうすることで修業の理不尽さを客観的に受け容れることにしました。あらゆる動きの基本はタイミング。流れや相手関係が最優先でマニュアル化や効率追求は無意味。ムチャブリが度胸を鍛える。自己主張しない者こそ評価される——。

例えば前座修業は社会人としての自己を壊すプロセスでした。ほどよく壊れて今、プロと名乗れる二ツ目落語家として日夜呑気に高座に上がっています。しかしまだ「調査」イ



ヤ修業は続いています。生涯修業が、嘶家なのです。  
(広報委員会注・立川寸志さんは、2017年1月の同窓会新年会で講演されます。「詳細は表紙4参照」)

## 子ども家庭支援センターの役割

横関 恭孝 (都30・人文・社会)

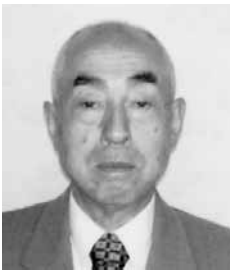
卒業後は教員になろうと思ったのが大学4年になる頃で、教育実習をやっておらず、1年留年して教員免許を取得。ところが生来の勉強嫌い、努力不足が影響し、採用試験には落ちてしまった。卒論は子どももの非行と家族の問題をテーマに、とこれまた思っただけで挫折。即席の別テーマで何とか仕上げたが、当然指導教官の評価は冷たいものであった。

食べていくにはともかく就職しなければならぬわけだが、何か子どもに関わる仕事をと探した結果、東京都杉並区の児童館職員に応募し採用された。当時は児童館が次々と建設されていた時代で、幸運にも大量採用のタイミングに引っかかった。就職後教員試験再挑戦も考えていたのだが結局回避。そのまま杉並区役所で児童福祉の仕事に携わってきた。そして30数年が経過。現在は子ども家庭支援センターという部署で子育てに関わる相談支援の仕事をしている。気がついてみたらもうすぐ定年

である。

子ども家庭支援センターは自治体の児童虐待の通告・相談窓口で、ここ数年は件数が増加し対応に追われる日々である。扱うケースには重篤なものも多い。仕事を通じ、家族が直面する様々な困難や問題に触れる。DVで子どもを連れて離婚したシングルマザーの新しいパートナーがやはり暴力をふるう人物だったり、経済的には苦しいけれど何とかやってきた一家の母親が病気で亡くなり、子どもの生活が不安定になって、不登校になってしまったり、虐待を受けて育ち自分は繰り返さないと思ってきたが、親になってみたら結局同じことをくりかえしていたり。「子どもの貧困」の問題にもしばしば出会う。

かつて卒論のテーマにしようとした、非行をくりかえす子どもたちに関わることもある。背景には、必ず家族関係の問題があるが、社会の様々なひずみも横たわる。問題の解決は容易ではなく、あの手この手でアプローチするが「関わらないでもらいたい」と拒否されることも少なくはない。  
それでも子どもの成長は希望であり、少しでもプラスを見出したいと取り組んでいる。かつて挫折した卒業論文も今なら少しは書けそうな気もするが、仕上げるにはまだまだ修行が必要である。



**中村 宣男**  
なかもら のりお  
埼玉県立熊谷高等学校卒業  
1959年都立大学工学部  
建築工学科入学、63年都立  
大学工学部建築工学科卒業  
同年清水建設株式会社入社  
首都大学東京ラグビー部OB

リタイア後に無農薬で農作業  
中村 宣男（都17・建築工学）

私は66歳で退職後、交互に東京区部と埼玉県秩父市に住んでいる。いわゆる2地域居住だ。

秩父の土地は畑を農地転用して購入し、家は地元の工務店にお願いした。そこでは、年間を通じて約30種類の野菜や果物を無農薬、無化学肥料、無公害（マルチなどは使わない）で育てている。無化学肥料の野菜は早期に肥大化しないが、ビタミンや鉄分のほか各種のミネラルなどの微量成分が一般の市販野菜に比べて格段に多く含まれている。そのせいか、来年は満80歳になるのに医療費がかさむことはない。

そして秩父を訪れてくる友人知人に穫れたての野菜を振る舞ったり、各種クラス会、サークルの会合や（短）歌会を開いたりしている。このようなりタイア後の生活スタイルは自身の心身の健康に極めて良いようだ。現在は年金制度があるためもあり、地方に住んで田畑を所有していても農作業をせずにスパーで野菜を買っている高齢者が多い。しかも日課は医者通いという人もかなりいる。こういう高齢者達が無農薬、無化学肥料、無公害の農作業をすれば、おおいに老人医療費の削減や耕作放棄

地の縮小、景観の美化、そして食糧危機対策になる。（私は8歳の時終戦を迎えたため、その後数年間の食糧危機を経験している。）

また、現在都会に住んでいる人達が地方に転居するか2地域居住すれば、地方は賑やかになり経済効果も発生して都会との地域間格差が小さくなる。

このように地方であれ都会であれリタイアした人達が農作業をすれば医療費削減、質（食の安全）量の食糧危機対策、耕作地放棄の縮小、景観の美化、都会との地域間格差の縮小という確実な効果が幾重にも得られる。私はその啓蒙活動を機会あるごとに続けている。

今日、大変盛んになっているラグビーについて一言。創部以来、多くのOBを見てきたが、おおむね良質な人生をおくっているようである。これはもちろん、本人自身によるところ大であるが、ラグビーによると



冬でもトンネル架で栽培しています

ころも少なくなってしまう。そこで「便所飯」、「ポッチ」と言われるような引き籠り気味な学生を入学させれば、フランクな部の雰囲気と試合や練習でおのずと大声を発する環境で引き籠り性はかなり解消される。こうすれば、将来発生する懸念のある「引き籠り成人」の生活保護等の社会的負担の削減になると思う。

OBが共同所有する  
山荘を楽しむ  
戸辺 文博（都21・建築）  
遠藤 洋（都37・工化）

今からもう30年以上前の昭和58年（1983）になりますが、昭和48年〜55年の卒業生11名（うち過半は建築学科）により山荘を建設しました。建設場所は長野県長和町追分にある姫木平別荘地（標高1200m）で真夏でも20〜22度程度で避暑に最適、一方冬は別荘地内のエコーパレーをはじめ近くに複数のスキー場が利用できる好立地にあります。

山荘は、約500㎡の敷地（借地）に地元産の唐松を内外の壁仕上げに木造2階、2LDK・60㎡規模の建物です。維持管理のために「建研楽学会」を組織し、以来円滑な運営と必要な修繕に務めてきました。当時のメンバーは、20代から30代

前半で、以来しばらくは子育て時期を中心に家族連れで避暑やスキーに大いに利用してきました。しかし、今ではメンバーも60代が中心になり、将来の維持管理を心配する時期に差し掛かってきています。

伝統校に比べると同窓の絆が希薄な都立大・首都大と感じているのは私だけではないでしょう。せっかく同窓生により建設された共同建物です。（当時は多くは若手社会人、世帯形成や子育ての真っ最中だけに費用を捻出するにも相当苦労しました。）できれば後輩の皆様にも引き継いでいきたいと考えています。

ちなみに、年間の維持管理費は、税金、光熱費、総会後の懇親会費など諸々で年間25万円程度で、ピジター利用料や会員均等負担の年会費（現在は3万/人）で収支をバランスさせています。

以上が、現地の状況や会員の条件などの概要ですが、ご興味のある方は左記まで問合せください。  
問合せは戸辺まで携帯09078108451  
E-mail: IS01150@nifty.ne.jp



## 特別寄稿

前震から3ヶ月の7月14日

宮脇 利充  
(熊本放送テレビ制作部部长)

宮脇 利充  
みやわき としみつ  
1984年東京都立大学法  
学部政治学科卒業。同年、  
熊本放送にアナウンサーと  
して入社。その後、テレビ  
制作部、報道部、ラジオ編  
成制作部を経て現職。



岩楯 敞広  
いわたて たかひろ  
首都大学東京名誉教授・  
オープンユニバーシティ特  
任教授・上海交通大学客員  
教授



まさかこんなことになるうとは思  
っていませんでした。それが放  
送人としてどうかと問われれば返す  
言葉もありませんが。年に1度は実  
施してきた地震対応の訓練も、県内  
のどこか他の場所が震源という無意  
識の前提があったことを告白しない  
わけにはいきません。それが、熊本  
市で震度6弱、6強を記録する大地  
震が発生しようとは。4月14日の前  
震発生から翌15日にかけての報道特  
別番組が終わり、漸く帰宅して数  
時間後、再び襲った16日未明の本  
震。駆けつけたわが熊本放送の局舎  
に明かりが灯っていないのを目撃し  
たときには心底驚きました。停電  
時、瞬時に自家発電に切り替わるは  
ずの装置が激しい揺れで壊れたので  
す。そののみならず、熊本本の民放  
4局が共同アンテナを設置してい  
る市内の送信所でも同様のことが  
起こり、地震発生から1時間あまり  
県内ではNHK以外のTV放送が停まっ  
たのでした(ラジオは流れ続けました)。  
しかし、それは後で分かったことで、  
私たち報道制作局員は出社した者か  
ら順次、懐中電灯で機材を用意して取  
材に飛び出していきました。そして、  
それから2週間は、空調が止まっ

た局舎で、同僚の多くは避難所から  
あるいは車中泊をしながら出社し、  
番組制作を続けることになったので  
す。これが夏だったら放送機器が熱  
さに耐えられず、放送は不可能だっ  
たらうと技術スタッフは言います。

「まさか、ここでこんなことが起  
きるなんて…」震災にあった場所  
ではこれまでも多くの人が同じこと  
を思ってきたはずです。日本では、  
どこでも被災地になる可能性はあ  
る。いまではそう思います。熊本県  
ではいまだ約4700人が避難所生  
活を続けています。地震の後の長い  
豪雨で被害状況はさらに悪化しまし  
た。これから復旧に長い時間がかか  
るでしょう。事前の準備がしっかり  
出来ていなかったマスコミ人でも、  
被災者の心情に寄り添い復旧の様子  
を、そして時々々の問題を伝え続け  
ることは出来る。そう考えて、あの日  
以来、番組制作にあたっています。



熊本地震に想う

岩楯 敞広  
(首都大学東京名誉教授)

私は、母校東京都立大学(現・首  
都大学東京)土木工学科で15年、地  
震工学・耐震工学を専門として学生  
の教育・研究に携わり、退職後も名  
誉教授として、また、中国上海交通  
大学の客員教授として、日本・中国  
の学生の教育・研究の指導を続け  
ると共に、現在、オープンユニバーシ  
ティのOU特任教授として、社会人  
を対象とした防災研究・教育活動に  
従事しております。

この約40年間に、日本では、阪神・  
淡路大震災(1995年1月)、東  
日本大震災(2011年3月)等の  
大地震を含め多くの地震を経験しま  
した。特に、阪神・淡路大震災によ  
る耐震神話の崩壊は、私にとって、  
原点に立ち戻って地震・耐震研究を  
始める絶好の機会となりました。

私は、地震が起こる度に、「研究・  
教育の場は、現場にあり」をモット  
ー(Motto)に、助教の先生方や学  
生とともに地震被害調査を実施し、  
被害の実態の把握と原因の究明を図  
り、その成果を学生の研究・教育に  
反映するとともに土木学会や国の耐  
震基準の見直し・改定等に協力して  
きました。

熊本地震では、4月14日(前震)

と4月16日(本震)に最大震度7の  
地震が連続して発生し、その後、震  
源域は、熊本県阿蘇地方から大分県  
にまで拡大し、死者49人、行方不明  
1名、被災者は、約18万人に達し、  
家にも戻れず長期間に渡って避難所  
や車の中で不安な生活を余儀なくさ  
れております。私は、地震発生から、  
約1か月後の5/11~14に、神奈川  
大学の先生と益城町、南阿蘇村、熊  
本市内などを中心に地震調査を行  
いました。地震被害は、断層に沿って  
集中しており、最初の地震(前震)  
で軽微な被害に留まっていた熊本城  
はじめ、公共の建物、一般住宅、道路、  
阿蘇大橋などの橋梁、俵山トンネル、  
斜面、盛土等が、本震では、倒壊す  
る等甚大な被害となりました。早速、  
今回の地震被害調査結果を、大学院  
の授業やOUの公開講座等で紹介し  
ました。

震度7の地震が連続して起こる地  
震発生の形態は、過去に経験がない  
想定外であり、またしても、我々に  
地震の驚異、新しい問題点を突き付  
け、我が国の国土と社会の地震に対  
する脆弱性を露呈する結果となりま  
した。今回の地震被害調査を通して、  
新たに地震の恐ろしさ、自然の驚異  
を痛感している次第です。70才を越  
えた私ですが、今後とも、できる限  
り現場に足を運び、最新の情報を吸  
収し、私が得た経験や知識を少しで  
も多く、大学の授業やOUなどの社



南阿蘇村阿蘇大橋付近の斜面崩壊 (5/12 岩楯撮影)

会人教育の場で次世代を担う老若男女に伝え・継承するとともに、安全・安心の社会構築、都市の防災に役立てていくことが私の使命 (Mission)

と考えております。「70才・80才は働き盛り」と言われております。今後とも、新たな目標に挑戦し、進化したいと考えております。

2016年度 入試合格者・入学者数 (合格者数は一般選抜の合格者数)

合計	健康福祉学部						システムデザイン学部						都市環境学部						都市教養学部						学科・系・コース			
	健康福祉学部						システムデザイン学部						都市環境学部						都市教養学部									
																			理工学系							経営学系	法学系	人文・社会学系
	小計	放射線学科	作業療法学科	理学療法学科	看護学	小計	インダストリアルコース	経営システムデザインコース	航空宇宙システム工学コース	情報通信システムコース	知能機械システムコース	小計	分子応用化学コース	建築都市コース	都市基盤環境コース	地理環境コース	小計	機械工学コース	電気電子コース	生命科学コース	化学コース	物理学コース	数理科学コース					
1,675	157	33	30	30	64	260	51	54	49	47	59	182	57	53	49	23	1,076	254	47	44	30	46	47	40	230	371	221	合格者
1,358	142	31	29	29	53	238	51	45	46	41	55	163	44	48	48	23	815	213	33	42	24	41	39	34	208	202	192	入学者

**司法試験 68校中16位で  
合格率は19.53%**

法科大学院修了者を対象とした2016年の司法試験の合格者を法務省が9月6日に発表した。

全体の合格率は29.5%で、首都大学東京は128名が受験し25名が合格した。全国的に年々横這い傾向にあるが、母校のより一層の奮起を期待したい。

■法科大学院修了生と

予備試験通過者の合格状況 (1位、20位)

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
大学院名	一橋	東京	慶應	早稲	神大	中央	九州	大阪	愛知	名古屋	東海	北海道	千葉	首都大	創価	岡山	静岡	神大	神戸	神大
受験者数	127	285	222	350	427	462	125	157	136	15	136	96	128	74	86	128	67	61	18	13
合格者数	63	137	105	155	152	136	41	36	42	4	34	23	30	15	17	25	11	3	2	2
合格率 (%)	49.6	47.8	47.3	44.3	35.4	32.1	28.3	26.2	26.6	26.2	25.0	23.3	23.4	20.0	19.4	19.0	16.4	16.7	15.3	15.4

○は学生の募集を停止したか、停止を公表した大学院(廃止含む)  
朝日新聞9月7日朝刊による

伊豆大島と起業家をつなぐ「あんど！大島」 第6次産業起業家養成プログラムが開始

「あんど！大島」プロジェクトチーム代表  
システムデザイン学部教授 諸貫 信行

本学が総括を務める起業家養成プログラム「あんど！大島」の第1回講座が南大沢キャンパスにて行われました。

この講座は伊豆大島にあるさまざまな観光資源を柔軟に組み合わせた新たな産業（新6次産業）によって、これまでにない価値を提案できる起業家を養成することをねらいとしたもので、文部科学省の平成28年度「成長分野等における中核的人材育成等の戦略的推進」受託事業としてスタートしました。

大島では観光客数が年々減少傾向にあり、観光を主産業とする島内の暮らしを支えるためには、これまでにない大島の新たな魅力を発見・発信できる人材の育成が急務となっています。そのため、この講座では一般的な経営知識を学ぶだけにとどまらず、伊豆大島の伝統や文化、風土を学ぶ時間も多く設けています。

中でも特筆すべきは計4回（8日間）の講座の内、3回（6日間）は伊豆大島の現地学習を行う点でしょう。現地学習では椿花ガーデンの他、牛乳工場、くさや工場など普段は立ち入れない大島の地場産業の現場を実際に見て、学ぶことができます。

10月1日、2日の2日間にわたり国際交流会館で開催された第1回講座には伊豆大島での起業を目指す数多くの受講生が集まり、講座の内容に熱心に耳を傾けていました。

当日の講座は、まず学長代理として西村和夫副学長にご挨拶をいただいた後、各界でご活躍されている講師陣による講義が行われました。講師の中には本学の初代理事長を2013年までお務めになった高橋宏氏のお姿もあり、「起業家精神と喧嘩の作法」と銘打った講義で自身の日本郵船代表取締役時代や郵船航空サービス社長時代を振り返り、起業家・リーダーのあるべき心構えについて熱く語りかけていらっしゃいました。

また、大島からも(株)大島牛乳社長の白井嘉則氏と大



島観光協会会長の白井岩仁氏をお招きし、講師としてお話をさせていただきました。

嘉則氏には、大島の歴史を振り返りながらその中で営まれてきた産業の移り変わりについてご解説いただき、かつて大島が「ホルスタイン島」とまで呼ばれた酪農の一大産地であったことなど内地ではあまり知られていなかったの大島の姿をお聞きすることができました。

岩仁氏には、大島の観光戦略についてお話をさせていただきました。近年では旅行客確保のためにスポーツ大会の会場誘致に力を入れているといった最新の観光戦略についてのお話にはじまり、三原山の噴火や台風などの自然災害による観光業への悪影響といった大島ならではのリスクとどう向き合うかという深刻な課題までも包み隠さず語ってくださいました。大島の観光のリアルな今を感じられるお話は興味深いものばかりで、質問時間には数多くの質問が寄せられていました。

そのほか、交通政策・公共経済学を専門とする大妻女子大学教授の戸崎肇氏、阿佐ヶ谷アニメストリートをプロデュースしている作戦本部(株)の代表取締役・鴨志田由貴氏や、宮崎県を拠点に数多くの起業や社会事業をマーケティング戦略や企画で支援している有限会社マキノデザインの牧野剛己氏、離島創生で注目を集める隠岐海士町の観光協会の千葉梢氏に各専門分野から地方創生を語っていただき、受講生には充実した2日間の講座となりました。

残す3回の講座の受講はすでに募集受付を終了しておりますが、講座の様子などは公式ホームページ (<http://www.comp.tmu.ac.jp/tmu-shin6/>) で随時更新していく予定です。そちらもご覧のうえ、応援をよろしくお願いします。またお問い合わせ等は直接「あんど！大島」プロジェクトチーム・メールアドレス [shin6www@tmu.ac.jp](mailto:shin6www@tmu.ac.jp) へ。プロジェクト名の「あんど！」は、島言葉で「あるよ」を意味する「あんど」と「&」をかけた言葉であり、伊豆大島の魅力を複数組み合わせることでも明るい未来が「あんど！（あるよ!）」という想いがこめられています。



おめでとう！

2016年のノーベル医学生理学賞を受賞された大隅良典さんの奥様満里子さん(旧姓中沢さん)は都立大学理学部生物学科を1969年(17期)に卒業された同窓生です。心よりお祝い申し上げます。報道からみると良典さんの受賞も満里子さんとの共同受賞と言っても過言でないように思えます。同窓会としても卒業生の中にこのような栄誉の影の功労者がいらっしゃるということとは、大変うれしい限りです。

早速、同窓会会長名で、お祝いの電報をお届けし、ささやかですが、祝意を表しました。

本当におめでとうございます。

(広報委員会委員長 黒川 信)





# 母校はいま

見出しの☆印は同窓会で支援している行事です。

## 2015年度卒業式

3月24日(木)有楽町 東京国際フォーラム ホールAにおいて平成27年度の卒業式が行われました。今年度の卒業生は卒業生・修了者合計2396名でした。内訳は学部卒業1589名、健康福祉学部助産学専攻9名、大学院博士前期(修士)679名、博士後期(博士)61名、専門職学位58名大学院修了者合計798名です。卒業生・終了生は午前10時からの東京国際フォーラムでの卒業式、その後南大沢・日野・荒川の各キャンパスに戻って大学院研究学科・学部系・コースに分かれての学位授与式、各キャンパス内の会場、学外の会場で



学位記(卒業証書)を抱え喜び溢れ、記念撮影をする卒業生

の系・コース別、或いはゼミ・研究室などの集まりがあり、朝から晩まで忙しくも希望に満ちた一日を過ごしたようです。

## 2016年度入学式

4月3日午後2時30分から有楽町東京国際フォーラムにおいて、平成28年度入学式が行われました。今年度の入学生は、学部1656名、大学院865名、合計2521名でした。式典は、上野学長式辞、舛添知事祝辞(秋山副知事代読)、川井都議会議長・川渕理事長・黒石同窓会会長・福地Uクラブ会長の挨拶と続き、先輩から新入生への贈り物として首都大学東京管弦楽団の演奏、エリカ



首都大学東京管弦楽団によるドヴォルザーク作曲交響曲第5番の演奏で新入生を祝福しました

混声合唱団・グリークラブによる合唱、応援団・男女チアリーディング部によるエールが披露されました。上野学長式辞要約は、

<http://www.tmu.ac.jp/news/topics/12774/12775.html>

川渕理事長祝辞要約は、

<http://www.tmu.ac.jp/news/topics/12774/12776.html>

黒石同窓会会長祝辞要約は、

<http://www.comp.tmu.ac.jp/douson/2016/> 首都大学東京同窓会外部リンクをクリックしてご覧ください。

☆今年の大阪府大戦は敵地大阪で、14勝16敗1引き分けで惜敗!



首都大 応援団・チアガール・ボーイが一体となって応援したが一歩及ばぬ結果になりました

7月1日(金)～3日(日) 大阪府立大学中百舌鳥キャンパスを中心会場として開催された第64回首都大学東京・大阪府立大学総合競技大会は今回のAwayで勝利すれば4連勝、20年ぶりの快挙となる筈でしたが、結果は首都大学東京の14勝16敗1引き分けで惜敗しました。第64回の競技は、水泳とヨットの期間外2種目と期間内25種目計27種目、男女別を加えると31種目で戦われました(合気道は合同練習)。大会期間中は連日35度の猛暑日に迫る暑さでしたが大きな事故もなく滞りなく行われました。首都大学東京からは約50名の選手団、川渕理事をはじめとして多くの教職員が参加、同窓会からは黒石会長、松浦事務局長、杉村次長が応援に出向きました。

## 横浜市立大学定期戦は

南大沢キャンパスで勝利

6月5日(日)第35回首都大学東京・横浜市立大学定期戦が南大沢キャンパスで開催されました。

◇開催趣旨(横浜市立大学HPから転載)東京と神奈川県を代表する公立校である両校の親睦をスポーツを通じて深める。また、日頃から心身練習に励んできた選手が一堂に会してしのぎを削り、その成果を示すとともに両校のレベルアップを図る◇この趣旨に沿った熱戦が繰り広げら

れ、10勝3敗の戦績で本校が勝利しました。通算成績は首都大学東京の27勝4敗3引き分けとなりました。



スクラムからボールを出すラグビー 47対21で首都大が快勝

☆2015年スポーツ・文化活動賞  
授与式を開催

3月22日(木)午後2時から本部棟大会議室において平成27年度スポーツ・文化活動賞の授与式が行われました。授賞式には上野学長、西村副学長、真鍋学生委員会委員長、木幡学生サポートセンター事務部長、黒石同窓会長が出席、黒石会長から受賞者に表彰状が授与され、副賞(金一封)が贈られました。平成27年度の受賞団体は次の通り1団体2個人でした。

\*陸上競技部 服部 俊

「第84回日本学生陸上競技対抗選手権」男子1500M走において、全国第8位という成績を収め、入賞を果たした。

\*ラグビー部

関東大学ラグビーリーグ5部において平成27年度は全戦全勝を達成し、上部リーグとの入れ替え戦の勝利も収め、4部リーグへの昇格を果たした。4部リーグへの昇格は、都立大学時代より17年ぶりの快挙でした。

\*横田かほり、新井志緒(都市環境科学研究科分子応用化学域博士前期過程2年)

東日本震災ボランティア活動の中で飯館村支援に重点を置き、「原木キノコの放射性物

質の汚染メカニズム」の調査を2年間行った。その結果、適切な対策をとれば飯館村でも汚染されないマイタケを栽培できることを明らかにし、農業再開に多大な貢献を遂げた。

☆第8回ファイティングスピリット賞  
授与式を開催

3月22日(木)午後2時30分から同窓会主催の「第8回ファイティングスピリット賞」の授与式が本部棟大会議室で行われました。今回は15件の応募があり、2月に開かれた審査委員会の結果、次の3団体2個人に決定されました。

\*山本彩華、中村芽莉

テーマ：生命科学コース新1



スポーツ文化活動賞受賞者の記念撮影  
前列中央左：黒石同窓会長、同右：上野学長



ファイティングスピリット受賞者全員で記念撮影

年向け情報雑誌「生命科学満喫のススメ」の制作

表彰理由：後輩に有意義な学生生活を送ってほしいという思いやりと同時にそれを授業にも活用できるレベルの冊子にまとめた努力を評価。

\*Happy Circle International

「世界の幸せつなげてみる会」

(代表 森 久美子)

テーマ：世界で生きること私たちのHappy Lifeを応援します！

表彰理由：在留外国人の子供やその親に対して、多分野の専門家を巻き込んで広範囲な面からサポートする体制を立ち上げ、困難に直面しながら、粘り強く取り込み、成果をあげている。

\*首都大学東京ラグビークラブ

(代表 平野 諒)

テーマ：関東大学ラグビーリーグ戦における成績と一年間の諸活動。

表彰理由：抱えていた課題を自分たちの努力や工夫で乗り越え、関東大学リーグ戦や大阪府大戦で立派な成績を挙げた。

\*CORE (代表 真壁 健二)

テーマ：能代宇宙イベントにおけるIST賞受賞。

表彰理由：膨大な作業や課題



首都大学東京

一時保育施設を開設

研究や仕事を継続しながら子供を容易に生み育てる保育環境を整備するため、「首都大学東京一時保育施設」を開設しました。

場 所…南大沢駅 徒歩7分(学外)

保育日…年末年始を除く平日

保育時間…8時10分～20時

保育対象…生後57日～小学校就学前児童 員…5名(先着順による受付)

利用対象…本学教職員・本学在学中の学部及び大学院の正規学生

利用料金…学生1時間400円、一日の上限2,500円

教職員1時間800円、一日の上限5,000円

ご利用には事前登録が必要です。



一時保育施設の一室

お問い合わせは、首都大学東京ダイバーシティ推進室(南大沢図書館1階) 電話 042-677-1337 (直通)へ

国際交流会館中庭にある茶室を

ご存知ですか?

国際交流会館の中庭には立派な茶室があります。1991年に都立大学が目黒から南大沢に移転する際に国際交流会館の建設が企画され、その際に茶室が造られました。この茶室は現在名鉄犬山ホテルにある茶室「如庵」(1951年に国宝に指定)を模して造られたものです。如庵は1618年に織田信長の弟、織田有楽斎により京都・建長寺に建造された茶室です。国際交流会館にある茶室の名称は、南大沢移転の時の佐野総長の提案でオリジナルの「如庵」の「如」の字の下に「心」を加え「恕庵」(Joan)と命名したとのことです。



国際交流会館中庭にある国宝を模した茶室「恕庵」

首都大学東京

ボランティアセンターを開設

学生のボランティア活動の支援を更に推進し、豊かな人間性と独創性を備えたリーダーシップを発揮する人材を育成するため1号館1階に「首都大学東京ボランティアセンター」が開設されました。

センターでは、今後、①情報提供・発信②活動サポート③ボランティアプログラムの開発・運営の3つの柱により活動をしていきます。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に代表される、マンパワーを要するイベント等の実施の際にリーダーとなり得る人材の育成という観点からも、こうした大学の取組みが期待されています。 URL:<http://www.gs.tmu.ac.jp/gakuseika/>



ボランティア募集や講座・助成金等の情報を提供する掲示板

機械系同窓会

(学科同窓会)が設立

6月11日(土)南大沢キャンパス理工系ゾーンにある11号館204教室にて機械系同窓会の設立総会が開催されました。首都大学東京・東京都立大学・東京都立科学技術大学の機械系学科コースの学科同窓会の設立総会です。発起人代表である西村尚都立大学名誉教授(都・11・工)から設立趣旨説明・規約の審議が行われ、質疑の後、名称は「きずな」会と決まり、初代会長に西村尚氏が選出されました(21頁参照)。

細野秀雄氏が日本国際賞を受賞

細野秀雄氏(都・25・工・工化卒)東京工業大学科学技術創成研究院フロンティア材料研究所教授、同大元素戦略センター長)が2016年(第32回)日本国際賞「物質、材料、生産」分野にて日本国際賞を受賞されました。

日本国際賞とは、全世界の科学技術者を対象とし、独創的で飛躍的な成果を挙げ、科学技術の進歩に大きく寄与したと認められる人に与えられるノーベル賞並みの世界的な賞です(内閣府〈国際賞〉ホームページ参照)。



清水敏男氏が仏芸術文化勲章  
シュヴァリエ工賞を受賞

素材研究の醍醐味」～身近にある数多くの新素材～について講演されました。

細野秀雄氏は、昨年11月3日（火・文化の日）に南大沢キャンパスで開催されたホームカミングデーの講演会（同窓会主催）でテーマ「新



間で北野武・松本零士・滝川クリステル等120余名の日本人が授賞されています。

2011年・12年の本学寄付講義の講師をされた清水敏男氏（都・25・人文・仏文、清水敏男アートオフィス社長、学習院女子大学教授）がフランスの芸術文化勲章シュヴァリエ工賞を受賞されました。芸術文化勲章は1957年に創設され、仏文化の紹介者・普及の実務者・支援者に贈られる名誉ある勲章で、ここ10年

本学初の養護教諭1種免許取得者誕生  
～6名が養成課程を終了～

本学で初めてとなる養護教諭1種

免許の取得者が、この春6名誕生しました。養護教諭は、いわゆる保健室の先生として、児童・生徒の救護活動のほか、学校内の安全や衛生状態を管理し、教育も行う立場になります。養護教諭1種免許はこの仕事に就くための資格で、看護学科の過程に加えて学校での養護実習を含む33単位を履修することにより、卒業時に得られるものです。首都大では平成24年度入学者から養成過程を設けており、今回が初めての過程修了者になります。



養護教諭一種免許を取得した6名の卒業生

本学の志願者数が大幅に増加

首都大学東京の志願者数が本年は大幅に増加しました。少子化が進む中、他大学に比較して驚異的な伸びを示しています。受験生の本学に

2016年度 主な国公立大学の志願者数  
(2016年6月12日号 サンデー毎日より転写)

大 学 名 (所在地)	志願者数 (前年度比)
北 海 道 大 (北海道)	9,919 ( 85)
東 北 大 (宮 城)	6,169 ( -219)
筑 波 大 (茨 城)	6,370 ( -78)
千 葉 大 (千 葉)	11,357 ( 1,212)
東 京 大 (東 京)	9,278 ( -3,106)
東京工業大 (東 京)	4,401 ( 115)
一 橋 大 (東 京)	4,172 ( 51)
横浜国立大 (神奈川)	7,839 ( -315)
名古屋大 (愛 知)	4,797 ( -182)
京 都 大 (京 都)	8,353 ( 312)
大 阪 大 (大 阪)	10,434 ( 107)
神 戸 大 (兵 庫)	9,889 ( -97)
九 州 大 (福 岡)	7,739 ( 87)
首都大東京 (東 京)	8,481 ( 258)
大阪市立大 (大 阪)	5,857 ( -44)
大阪府立大 (大 阪)	8,439 ( -87)

対する評価が高くなった結果だと思  
い、学部名の改訂もあり来年度は更  
なる伸びを期待するところです。

異文化理解講座

箱根バスツアーを実施

新たに本学に入学した外国人留學生を対象として、日本の歴史や文化・習慣等について理解を深め、日本人学生および教職員と親睦を図る目的で国際課では、毎年春秋の2回バスツアーによる異文化理解講座「箱根バスツアー」を行っています。今年4月23日（土）、神奈川県箱根町で開催しました。今回の講座は、箱根関所の見学。箱根神社参拝と散策、芦ノ湖遊覧船「海賊船」の乗船など行い、自然の美しい景色を満喫し、日本の文化に触れる良い機会です。大勢の友



箱根バスツアーを楽しんだ留学生

人を作ることができたと大変好評でした。

日野キャンパス 新実験棟（3・4・5号館）の完成により大変貌

日野キャンパスが新実験棟の完成によりエコキャンパスのモデル施設として整備されました。従来、北門付近に分散していた風洞実験施設・ジェットエンジン実験施設等の各研究施設を新実験棟（3号館）に集約し、正門から入って4号館・5号館までの広いスペースのキャンパスコートは快適な美しい緑の広場に造成され、高度な研究成果をあげられる素晴らしい環境に変貌しました。

新実験棟は、建築面積約4,690㎡、延床面積約9,580㎡、地上2階（3号館）地上4階塔屋1階（4・5号館）です。



様変わりした日野キャンパスの俯瞰

ひな飾り一般公開と

ひな祭りに関する報告

国際センター特任教授

岡部 豊

背景

都立大学の南大沢移転時に、七段飾りのひな飾りを吉徳大光から寄贈を受け、国際交流会館中庭にある茶室で、2～3月に公開していた。しかしながら、首都大学への移行の前あたりから、ひな人形を飾ることなく、死蔵されていた。2013年に、当時の国際センターの海野准教授、野本職員により、国際交流会館四階にひな人形が保管されていることを確認したものの、それを飾ることはなかった。卒業生の久崎様のご自宅でひな祭りを行い、留学生、在学生が参加しているもの、ご自宅が少し遠いこともあり、学内でひな人形を飾り、留学生に見てもらったかどうかと岡部が提案したところ、卒業生等によるNPO組織MeCのメンバーの方々が賛同された。

2016年1月に、ひな飾りの確認をして、保管状態がよいことがわかり、海老原国際センター長、島田国際課長にも相談して、ひな飾りの一般公開、ひな祭りを行うこととした。場所として、茶室を利用することとし、茶室の由来等について、建築の名誉教授の深尾先生に伺うなどした。

ひな祭り

MeCメンバーを中心に素案を策定したが、運営は有志学生が行った。司会は、数理科学コース3年の上野君、歌唱指導は、人文4年でエリカ合唱団の伊藤さん、ピアノ伴奏（録音して持参）は、人文4年の三浦君が担当した。国際交流ボランティアアサークルEadsのメンバー、学生国際サポーターの学生などが含まれていた。初めに海老原副学長・国際センター長に挨拶をいただき、タイ、中国、ハンガリーなどの留学生、日本人学生、国際センター等本学教員・職員、MeCメンバー、同窓会事務局関係者等、30名程度の参加で、ひな祭りの紹介、留学生による各国の女の子のための祭りを紹介、ひな祭りの歌の斉唱などを行った。後半には、都市環境・分子応用化学の久保教授を代表するJSTのさくらサイエンスプランで来学中の、バジャジャラン大学（インドネシア共和国）の学生10名、教員1名が参加された。

ひな飾り一般公開

3月1日（火）～3月3日（木）にひな飾りを一般公開した。3日間で、延べ100名を越す見学者があったが、特に3月2日（水）～3月4日（金）に都市環境・地理環境の松本教授を主催者とするMAHASRI国際科学会議&気候学国際研究センタ

ーのキックオフ会議が国際交流会館大会議室で開催されたので、その参加者が多数、参加された。

ひな飾りの飾り付け、片付け  
MeC関係者、学生等が協力して行ったが、特に、同窓会事務局の女性陣がひな人形の保管等についての確な対応をしていたいただいた。

パンフレット作成

ひな祭りの紹介、本学の茶室の由来、茶室前の庭にある「ししおどし」の紹介をする英文のパンフレットを作成し、参加者に配布したが、好評であった。茶室、「ししおどし」の部分は、季節によらないで、常時用意して、海外からの訪問者等に配布したらどうかとの提案がある。茶室について、深尾先生からいろいろと伺った。





□ 大学事務局からのご報告 □

東京の組織再編の構想案

再編後（平成30年度～）

【学部】

人文 学社 部会	人間社会学科	(110名)
	人文学科	( 90名)
法 学 部	法学科	(200名)
	法学コース	
	政治学コース	
経 済 経 営 学 部	経済経営学科	(200名)
	経済学コース	
	経営学コース	
理 学 部	数理科学科	( 45名)
	物理学科	( 47名)
	化学科	( 48名)
	生命科学科	( 60名)

【大学院】

博士前期 博士後期

人 文 学 科 学 研 究 科	社会行動学専攻	(14名)	(10名)
	人間科学専攻	(17名)	( 6名)
	文化基礎論専攻	(13名)	( 5名)
	文化関係論専攻	( 5名)	( 4名)
法 学 政 治 学 研 究 科	法学政治学専攻		
	法学分野 / 政治学分野	( 6名)	( 4名)
経 営 学 研 究 科	法曹養成専攻（法科大学院）	(52名)	
	経営学専攻	(50名)	( 5名)
	経営学プログラム		
	経済学プログラム		
ファイナンスプログラム			
理 学 研 究 科	数理科学専攻	(25名)	( 8名)
	物理学専攻	(35名)	(10名)
	化学専攻	(35名)	( 9名)
	生命科学専攻	(40名)	(16名)
	生命科学領域		
応用生命科学領域			
都 市 環 境 科 学 研 究 科	都市環境科学専攻		
	地理環境学域	(15名)	( 5名)
	都市基盤環境学域	(35名)	( 4名)
	建築学域	(35名)	( 4名)
	環境応用化学域	(50名)	( 6名)
	観光科学域	(15名)	( 5名)
	都市政策科学域	(15名)	( 5名)
シ ス テ ム デ ザ イ ン 研 究 科	システムデザイン専攻		
	情報科学域	(35名)	( 6名)
	電子情報システム工学域	(60名)	( 6名)
	機械システム工学域	(65名)	( 6名)
	航空宇宙システム工学域	(30名)	( 4名)
	インダストリアルアート学域	(25名)	( 4名)
人 間 健 康 科 学 研 究 科	人間健康科学専攻		
	看護科学域	(10名)	( 4名)
	理学療法科学域	(17名)	( 5名)
	作業療法科学域	(10名)	( 4名)
	放射線科学域	(21名)	( 6名)
	フロンティアヘルスサイエンス学域	( 4名)	( 2名)
ヘルスプロモーションサイエンス学域	( 8名)	( 4名)	

都 市 環 境 学 部	地理環境学科	( 30名)
	都市基盤環境学科	( 50名)
	建築学科	( 50名)
	環境応用化学科	( 60名)
	観光科学科	( 30名)
	都市政策科学科	( 35名)
シ ス テ ム デ ザ イ ン 学 部	情報科学科	( 50名)
	電子情報システム工学科	( 85名)
	情報システムコース	
	電気通信システムコース	
	機械システム工学科	( 90名)
	知能機械コース	
生体機械コース		
航空宇宙システム工学科	( 45名)	
インダストリアルアート学科	( 50名)	
健 康 福 祉 学 部	看護学科	( 80名)
	理学療法学科	( 35名)
	作業療法学科	( 40名)
	放射線学科	( 40名)

入学定員 計1,570名

入学定員 計742名 157名

※( )は各募集単位の入学定員

注：新組織は構想中のものであり、今後変更の可能性があります

※平成30年度以降に入学した方が再編後の学部・大学院に所属します。平成29年度以前に入学した方は卒業・修了まで現在の学部・大学院に所属します。



首都大学東京学長の上野 淳です。

首都大学東京同窓会の皆様には、いつも本学の運営および学生生活動に対し、多大なるご支援ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本学は開学以来12年目を迎えました。

その間、本学では、分野を超えた幅広い学びの仕組みや学生の能動的な学びの育成など様々な教育改革に取り組み、成果を産み始めていると考えています。また、研究においても、世界で戦える研究ピークの支援や東京都と連携した大都市が先端的課題に対する研究などで成果を挙げてきています。

一方、情報社会の急速な発展や少子高齢化、大規模な災害リスクの増大など社会を取り巻く環境は大きく変化し、高度化・複雑化した新たな課題を生み出しており、大学にはこれまで以上に高度な教育研究資源を結集し、課題解決に資する教育研究を行うことが求められています。

こうした状況の中、東京都が設置する唯一の公立総合大学として、今後もその使命を果たすため、学内において、必要な組織体制に関する検討を進めてきました。

その結果、平成30年度から、本学が有する教育研究資源の集約を図り、新たな時代要請に応える組織体制に再編成することといたしました。

今回の再編成を足掛かりに本学がさらなる飛躍を果たせるよう、同窓会とも連携を図りながら全力で取り組んでまいりますので、同窓会の皆様におかれましては、引き続きの応援をお願いできればと思います。

なお、再編成のポイント等については以下をご参照ください。

### 工学分野の再編・統合

急速な技術革新の進展に対応するため、都市教養学部 zu 置かれている電気・機械に関する基礎的な工学分野と、システムデザイン学部 zu 置かれている応用・総合的な工学分野とを統合し再編成します。特に、社会・産業からの需要が著しく増加している情報系分野や機械系の生命分野を強化します。

### 都市政策科学分野を再構築

都市教養学部 と大学院都市環境科学研究科 zu 置かれている都市政策科学分野については、高度化する都市の課題への対応力を強化するため再構築し、それぞれの強みを生かして、文理融合の教育・研究を更に広く展開していきます。

### 都市教養学部を4学部 zu 再編

都市教養学部の他の分野については、教育・研究の内容や育成する人材像がよりわかりやすく伝わるよう、人文社会学部、法学部、経済経営学部、理学部の4つの学部 zu 再編成します。

### 大学院を再編

大学院については、新たな学部構成に合わせて再編成するとともに、高度な専門性と幅広い知識を併せ持つ人材を育成するため、分野横断プログラムを導入します。



現在の学部構成	
都市教養学部	都市教養学科
	人文・社会系 (200名)
	社会学コース
	心理学・教育学コース
	国際文化コース
	法学系 (200名)
	法律学コース
	政治学コース
	経営学系 (240名)
	経営学コース
	経済学コース
	理工学系
	数理科学コース (40名)
	物理学コース (45名)
化学コース (45名)	
生命科学コース (50名)	
電気電子工学コース (40名)	
機械工学コース (40名)	
都市政策コース (2年次進級時に選択可)	
都市環境学部	都市環境学科
	地理環境コース (30名)
	都市基盤環境コース (50名)
	建築都市コース (60名)
	分子応用化学コース (60名)
自然・文化ツーリズムコース (3年次進級時に選択可)	
システムデザイン学部	システムデザイン学科
	知能機械システムコース (60名)
	情報通信システムコース (50名)
	航空宇宙システム工学コース (50名)
	経営システムデザインコース (50名)
インダストリアルアートコース (60名)	
健康福祉学部	看護学科 (80名)
	理学療法学科 (40名)
	作業療法学科 (40名)
	放射線学科 (40名)

入学定員 計1,570名

都市教養学部を4学部 zu 再編

電気・機械を再編・統合

都市政策科学分野を再構築

# 支部だより

## □ 関西支部

事務局長・根津 嗣郎  
(都32・工・建築)

2016年・首都大学東京同窓会  
「関西支部の集い」

第23回目の「関西支部の集い」は、5月28日(土)に大阪市中央区備後町の重要文化財「日本綿業会館」で開催いたしました。本部から松浦知彦同窓会事務局長をお迎えし、24名の参加により開催いたしました。

「関西支部の集い」は、鹿谷幹事(人文・史学 23期卒)の司会進行で17:00に開会いたしました。関西支部 松見副会長(法経・経済12期卒)の挨拶に続き、来賓の本部の松浦知彦同窓会事務局長からご挨拶をいただき、近年の同窓会事情をお聞かせいただき、その後乾杯を行いました。ひとときの宴と歓談の後、支部総会を行いました。総会議題は収支決算報告の件で、事務局長 根津(工・建築32期)から報告し、全会一致で承認をいただきました。その後、関西支部芦沢副会長から同窓会本部評議員会の報告がなされました。

恒例のスピーチは参加者全員から、司会の鹿野幹事が事前に用意したテーマにあわせて行いました。スピーチの内容が明確になり、話してもテーマを絞ることで大変話しやす

くなり、好評でした。初めての参加者もそれぞれの会員の人となりを知ることができ今後に繋がるものになったことと思います。この度の「集い」は昨年度に比較し、参加者が減少し寂しい開催になるかと心配しておりましたが、少ない参加者であるためかお互いにゆっくりお話をする機会を持って、とても親睦の深まる機会となりました。冒頭の副会長の挨拶の中でも継続してゆくことが大切とお話がありましたが、この同胞の会の親睦感を繋いで行きたいと考えています。

関西支部の会員は名簿記載人数837名となり、規模の大きな同窓会支部になります。今後もこの支部活動を維持発展させていきたいところですが、葉書やメールにおいて「関西支部の集い」開催の連絡を行っても、返信すらなき方が多く、意思確認すら苦慮するところです。また、若い卒業生の方や都立大以外の卒業生の参加が少なく、会の将来のためにも多くの方の参加を望んでいます。ご参加いただき、世代を超えた「つながり」を深めたいと思っていますのでご気軽にお越しください。関西在住の皆様、来年も春には「関西支部の集い」を幹事一同、企画を凝らして、開催いたしますので、是非参加を予定して下さい。

連絡先

E-mail: nezun0202@sage.ocn.ne.jp



幹事	役員	一覧
幹事	幹事	幹事
野本	博資	都51・経済
塩見	吉伸	都48・土木
山井	愛樹	都37・地理
小林	治	都26・数学
鹿谷	勲	都23・歴史
船川	和夫	都18・化学
大内	恵子	都14・英文
根津	嗣郎	都32・建築
副会長	芦沢	都17・建築
副会長	松見	都12・経済
会長	梅村	都10・機械

## □ 九州支部

幹事長・渡部 登  
(都20・理・生物)

第十一回総会開催される

ここ数年間、毎年、2月第3日曜日には九州支部の総会を開催しており、平成28年2月21日(日)、本総会が開催されました。

本年度は九州支部会長、副会長が高齢により退かれ、少し若返りして、新会長以下数名の幹事のメンバーも交代いたしました。

毎年、顔を出されている会員の数名が都合悪く欠席されましたが、新しく医技短卒業の会員、佐賀県、熊本県、大分県など遠方からの会員、複数の女性会員を含めて17名の出席がありました。おかげさまで、前回を上回る人数のご参加で会場から溢れんばかりの状況でした。

林本部副会長ご臨席のもと、新役員が承認され、歓談飲食ののち、空くじなしのビンゴ大会が開催され、色とりどりの景品をお持ち帰りいただきました。

会の後半には学友歌を斉唱し、都立大学時代の学友歌が今も連綿と受け継がれていることに痛く感動いたしました。会員同士の歓談は盛り上がり、いつまでも尽きることなく続きましたが、再会を期して博多一本締めで解散いたしました。



歓談の中で要望が出されたので、今年も夏休みにもう一度、縄文時代などをテーマにして歓談の機会を設ける予定です。会員には後日連絡いたします。

出席者は以下の通りでした。ほかの会員の皆様も次回の催しにも多数のご参加をお願いいたします。総会は来年も2月の第3日曜日(2017年2月19日)の予定です。こちらでも多数の参加をお待ちしています。

参加者一覧

林 正弘	14期・法経
大木 正之	3期・工・機械
田沢 明	5期・人文・法学
川路 宏	6期・工・建築
加藤 貞夫	7期・工・建築
浅尾 純子	7期・保健・放射
伊藤 興和	11期・法経・経済
福地 庸吉	13期・法経・経済
渡部 登	20期・理・生物
阿久津 昌之	23期・理・化学
橋本 孝仁	24期・法・法律
小川 省三	26期・理・物理
大藤 和秀	28期・経・経済
井上 隆	34期・経・経済
松岡 亨	4期・医技短・放射
上村 逸郎	45期・経・経済
山口 賢二郎	45期・経・経済
平岡 香織	48期・経・経済

□東北支部

事務局：庄子 友康  
(都20・法・政治)

東北支部有志懇親会

去る6月25日に東北支部の有志懇親会が開かれました。東北支部は以前毎年総会を開催してきましたが、次第に出席者が減り、2007年を最後に総会としては開かれてきませんでした。その後有志懇親会という形で規模を縮小して行ってきましたが、それも東日本大震災等があり、

しばらく活動を休止していました。しかし会員の中からたまに皆さん集まりましょうという声があり、今年久しぶりに皆さんに呼びかけをして開かれたものです。

以前のように会員全員に呼びかけることはせずに、以前出席されたことがある方、それもメールアドレスがわかっている方だけにEメールで呼びかけました。そこから横の連絡が行った結果まったく初めて出席される方もあり、18名の方が仙台の居酒屋に集まりました。予想外の人数で、首都大学東京卒業の若い方も2人いて、以前より平均年齢は一挙に若返りました。

乾杯、懇談とあつという間の3時間でした。上は80歳代の神山洋支部長から下は20歳代前半の方までその年齢差は60才近くありますが、そこは同窓の気安さ、あるいは小規模大学の良さでしょうか、皆さんすぐ打ち解けて話が咲きました。八雲・深沢を知らない人もいるし南大沢は知らない人もいます。あるいは現在の首都大学東京を卒業した人やそれ以前の大学を卒業された人もいます。一見バラバラな感じがするのですが、そこには通底しているなかが確実にありました。

こんなに大人数で楽しかったらまた来年以降も継続していきたいと思えます。しかし以前のように会員の皆さん全員にハガキを出して呼びか

けることは難しいと思いますので、今後は宮城県在住の方、そしてメールアドレスがわかっている方にだけメールで呼びかけをしたいと思います。宮城県にお住まいの皆さん、同窓会本部にメールアドレスをご連絡ください。そしてこの楽しい集まりに是非参加してください。来年お会いしましょう。

「表紙のことば」

埼玉りそな銀行洋館と  
くらぶくり本舗

普賢寺俊男(都1・工・機械)

卓球と演劇にうつつを抜かした学生生活が懐かしい。

デザイン設計からいろいろやって、仕事を辞め、書道・俳画に飽きたらず、いまは水墨画に凝っています。

水彩画にあつた頭書の構成が面白く水墨画に描いてみました。ご覧下さい。

編集注 普賢寺俊男さんは都立大学の前身の旧制都立高等学校の最終卒業生で、新制都立大学工学部に進まれました。旧制高校・大学・付属高校の卒業生の合同絵画展「八雲展」に毎回出展しておられます。

## 八雲クラブで会いましょう

丑山佐千男（都22・政治）

渋谷駅から徒歩5分、東急ハンズの裏側の渋谷ニューコーポラスに「八雲クラブ」があります。施設は40名収容可能のメインルーム（10階）と10名収容可能のサブルーム（11階）。運営は首都大学東京同窓会・八雲クラブ委員会が担当しています。現在約350名の「会員」が利用中です。

毎月第二水曜日には、「八雲サロン」（本年11月で連続365回目）が開かれ、会員でなくても、予約なしで自由に参加ができます。

毎月の八雲サロンに加えて、本年2月からは、毎月第4水曜日に、「行くところがある」「会う人がいる」をコンセプトに、「八雲カフェバー」を開いています。どなたでも参加自由。好きな時間においでいただき、お帰りも自由。どなたをお連れただいだいて歓迎。集まった方々がまず顔見知りになって団欒と情報の交換が出来る場所をめざしています。カクテルサーブिस（美酒倶楽部）、ギターライブ、本格カレーパーティー、同窓生落語家によるミニ寄席など毎回テーマをもったアルコール付の自由なサロンです。

2016年に開催された八雲サロンとゲストは、1月は新年会。カクテルパーティーと根谷崎武彦氏の写真

展「麗しき初夏のドイツ」。2月以降は、『駅弁を食べべに列車に乗ろう』（梶川義美氏・30・経済）、『女ひとり世界を旅する』（久野華子・大阪府立大OG）、『科学的根拠で考えるメタボとアンチエイジング』（稲島司氏・東大病院）、『裏から見た落語の世界』（立川寸志こと小田部信英氏・38・史学）、『ぶらっとハイウェイ高速道路のAON』（末岡眞純氏・22・院土木）など。また、6月には、

学生の就職活動支援の特別イベント「現役交流土曜サロン」を開催。「先輩・後輩をつなぐ異業種交流会」で盛り上がりました。

八雲クラブの詳しい紹介と入会方法、八雲サロンの予告などは、首都大学東京同窓会ホームページに載っています。渋谷の一等地へぜひいちどお出かけください。八雲クラブで、新しい出会いが得られることを願っております。



## 第43回埼玉八雲会研修会

佐伯 公（都14・経済）



埼玉八雲会は埼玉県在住の同窓生の研修と異業種交流、懇親の場として23年前に設立され、以来毎年春秋の2回会合を重ねてきました。第43回の研修会が平成28年6月24日にさいたま市のさいたま共済会館で行われた。当日は梅雨空の天候でしたが18名の参加を得て、「異文化の理解・イスラム世界」というテーマで講演が行われ、その後の懇親会では参加者の楽しい懇談が行われました。講師は同窓の早田正明氏で、同氏は工業化学科を昭和33年に卒業して総合化学会社に勤務され、海外経験も豊富であり、現役を退いてからとして、その経験を生かしてイスラ

ム問題の解説やパソコンの指導に当たっておられます。

話を要約すると、イスラム教は世界第2の大宗教であり、信者の日常生活に密着して、すべての行動や考え方の拠り所となるので、帰依する信者が急速に増えている。独特の行動規範や習慣がある。今日のユダヤとイスラムとの激しい対立は、1948年にイスラエル国が建国され、それまで定住していたパレスチナ人が強制的に排除された事に世界のイスラム信者が連帯して反発していることが根源となっている。それに民族対立、宗派対立、大国の介入などが複雑に絡んで昨今のテロや紛争を引き起こしている。歴史的経緯から見ても、この状態は更に継続すると思われる。

講演の後の懇親会では、出席者の一人が、「今日は異文化理解ということで、イスラム教およびイスラム文化の話聞いたが、振り返って日本の文化および自分の宗教生活のあり方を考える良い機会となった」とのコメントがあり全員が頷いた。次回の研修会は、今秋11月に開催予定です。首都大学東京同窓会員で埼玉県にご縁があり、この研修会に興味がある方はどなたでも参加を歓迎します。お気軽に下記にメールでご連絡ください。

isaeki@orange.plala.or.jp

## 第3回プロジェクト奨励賞 受賞グループ活動報告

第3回プロジェクト奨励賞3件のうち、1チームの報告書を掲載します。

### TMU-SFC・体験！化学実験実行委員会

代表 鈴木 遥（都市教養学部都市教養学科理系化学コース4年）

1. 目的 科学の楽しさを多くの人に伝える。化学実験を通じて、参加者の知的好奇心を高める。その知的好奇心を探求心へとステップアップさせ、未来の科学者を目指すきっかけを作る。

#### 2. 活動期間の活動内容

##### 【体験！化学実験 2015】

本年度は11/1（日）、11/3（祝・火）の2日間開催し、合計1,528人の方々に来場していただいた。アンケートでは、「楽しかった」と「まあ楽しかった」の回答が全体の98.3%を占めた。

##### 【出張！化学実験教室】

本年度は、毎年開催しているサイエンスドーム八王子、日本科学未来館（東京都科学技術週間）と近隣の小学校での出張実験を合わせて6件の出張実験を行った。こちらのアンケートでは、「楽しかった」と「まあ楽しかった」の回答が全体の95%以上を占めた。

#### 3. 活動開始からのスケジュール

2015年4月：東京都科学技術週間における「出張！化学実験教室」実施

6月：『体験！化学実験 2015』の予備実験  
南大沢小学校にて「出張！化学実験教室」実施

7月：『体験！化学実験 2015』の予備実験及びテーマの決定

8月：サイエンスドーム八王子にて『出張！化学実験教室』実施  
東京都北区教育委員会との連携で「出張！化学実験教室」実施

9月：「体験！化学実験 2015」の予備実施及び「HANDBOOK」の執筆

10月：「体験！化学実験 2015」の予備実験及び準備・広報活動

11月：「体験！化学実験 2015」の実施  
日本科学未来館における「サイエンスアゴラ」への出展

2016年2月：船田小学校にて「出張！化学実験教室」実施

3月：東京都科学技術週間における「出張！化学実験教室」の予備実験

#### 4. 目標に対する成果

大学祭期間中に行った、『体験！化学実験 2015』とそ

れ以外に小学校や科学館にて行っている実験教室『出張！化学実験教室』の2つの科学実験教室を行った。満足度の判定材料とするため行ったアンケートでは、化学を面白いと感じたと判断できる「楽しかった」と「まあ楽しかった」の回答は全体の95%以上であった。ここから、我々の数値目標であった「参加者の満足度80%以上」が達成され、結果、目標である「化学の面白さを多くの人に伝えること」も達成されたといえる。



実験室風景

#### 5. 活動に係わる反省点

活動開始以来10年たった2015年度は主に広報の面での改革として、新たにHPでの出張実験依頼の受け入れを導入した。2月に開催した高嶺小学校での出張実験は、この広報活動によって開催が決まった出張実験であったが、無事に好評を得た。我々としては、この結果に手ごたえを感じている。例年行っている「体験！化学実験」においても昨年度を大きく上回る1,528人が来場した。今後も大学と地域との交流を深めることが出来るような広報の拡張、活動の企画運営に励みたい。

#### 6. 今後の目的

今後も、「化学の面白さを多くの人に伝えること」を目的に活動していく。

昨年度に好評を得たSNS・HPでの広報活動、『出張！化学実験教室』依頼の受け入れを今後も精力的に行うことで、近隣にとどまらない運営に励む。すでに、4月には東京都科学技術週間における『出張！化学実験教室』を開催し好評を得た。

# 2016年 同窓会寄付講義

毎年、「産業と企業」のテーマのもとに開催されている同窓会寄付講義は、昨年度(2015年度後期)は、約180名の学生が登録しました。

講義全体を通じて、「様々な分野の先輩から話が聞け、幅広い教養としての知識が得られた」といった高い評価だったようです。また、講師の方々のご尽力により、学生から、「大変面白く、興味が持てた」「知識がなくてもわかりやすい」といった評価も多かったと聞いています。

今年度も、昨年度と同様に、学生には、1000字程度のレポートの提出が課せられています。

受講生には、この講義の特色を一層活かして、将来の勉学に役立てていただくことを期待したいと思います。

実施に当たっては、八雲同友会とNPO法人MeC及び同窓会の榎本副会長の協力により、OBの方の中から、会社経営に豊富な経験を持ち、産業の発展に貢献した方、あるいは、ご自分のかかわった事業についての話等、下記の方々にお願いました。

今年の講義では、科技大卒業生からも講師をお願いできることになり、都立大、科技大、保科大(旧医技短)の各校母校すべてから出そろいました。

昨年にも増して充実した講義が期待できそうです。

同窓生の皆様、講義を聞きにおいでください。

なお、講師についてご推薦いただける方、ご意見ご希望がございましたら、事務局までご一報ください。

## 第一部 講義の講師および日程

2016年10月13日(木) (運輸業)

小柳 淳 (都29期・法学・法律)

小田急トラベル 代表取締役社長

小田急電鉄(株)取締役(兼務)

「小田急グループの観光対策とインバウンド開発」

2016年10月20日(木) (法律事務所/弁護士)

齊藤 誠 (都16期・法学・法律)

弁護士法人齋藤法律事務所

「ビジネスと国際人権」

副題「これからの企業ビジネスに必要な国際人権の感覚を身につけるには」

2016年10月27日(木)

(投資運用/助言葉金融商品取引業)

高橋 誠 (都20期・経済・経済)

ユニテッド・マネジャーズ・ジャパン(株)

取締役会長、元野村証券取締役

「ヘッジファンドから見た日本の資産運用業と金融業」

2016年11月10日(木)

河野 一郎 (都14期・理学・数学)

前ブルデンシャルファイナンシャル

シニアレプリゼンタティブ

元プルデンシャル生命保険(株) 代表

取締役副会長、元同社代表取締役社長

「生命保険業界の現状と将来展望」

2016年11月17日(木) (食品原料販売)

近藤 秀衡 (都23期・経済・経済)

伊藤忠食糧(株)代表取締役社長

元伊藤忠商事(株)

「日本の食を考える」

副題「開発途上国からの食糧原料輸入への取り組み」

2016年11月24日(木) (特許事務所/弁理士)

松本 公一

(科技大5期・工学・機械システム工学科)

特許業務法人むつきパートナーズ

「身近にある知的財産/自分には関係ないやと思っ

## 第二部 講義の講師および日程

2016年12月1日(木)

三橋 貴明 (本名 中村貴司)

(都42期・経済・経済)

経済評論家、経世論研究所・所長

中小企業診断士

「政府と企業―経済市民とは何なのか?―」

2016年12月8日(木)

山本 那智子 (都24期・工・建築)

Gensler and Associates/ International Ltd

マネージングプリシパル(日本における代表)

「グローバル世代へのメッセージ」

(Message to our global generation) ]

2016年12月15日(木)

清水 公男 (都25期修了大学院心理専攻)

JR東京西ビル開発(株)代表取締役社長

元JR東日本旅客鉄道(株)取締役

「JR東日本の生活サービス事業の変遷」

2016年12月22日(木)

須藤 理枝子 (都44期・理・化学)

(株)さがみはら産業創造センター・

さがみはら表面技術研究所所長

「自由な創造力とコミュニケーション力を活かすものづくり新事業創出」

2017年1月12日(木)

宮崎 修治 (都17期・経済・経済)

ソニー学園湖北短期大学非常勤講師

元近畿日本ツーリスト(株)

「観光立国を目指す日本」

2017年1月19日(木)

齋藤 タ子 (都立医療技術短期大学)

専攻科7期 地域看護学専攻科卒)

杉並区保健福祉部子育て支援課

子ども家庭支援担当係長

「健康な都市づくりにおける自治体の政策―健康都市杉並の取組―」

## ■ 同窓会事務局からのお知らせ ■

### □ FAX専用回線の新設□

事務局のFAXは電話と回線を共用していました。

これまで、FAXが通じない、通じにくいとの苦情が多く事務局に寄せられていました。調査の結果、その原因は電話とFAXを一本の回線で使用していたためではないかということが判明しました。

さいわい大学から回線を新たに拝借できましたので、一本をFAX専用回線として使用することにし、8月より運用を開始しました。

これで、会員の皆様のご不便をかなり解消できるものと期待しております。

なお、当分の間これまでのFAX番号もご利用いただけます（下記）。

### □ 情報提供のお願い □

情報発信の重要性は言うまでもありません。同窓会関係でも、最近、HPや会報の記事を見てという問い合わせが増えています。同窓会としても、現在、同窓会に關係する情報を会員あるいは外部に積極的に発信することの重要性を感じており、その点に力を入れたいと考えております。

ただ、現状は、不十分と言わざるを得ません。発信したい情報の収集に苦慮しております。限られた現在の体制、人員ではこれ以上の充実は

なかなか困難な状況です。これを改善する大きな手段は会員の皆様からの情報提供です。

ぜひ、皆様から積極的に情報を提供していただき、ホームページ等の充実に努めたいと考えます。それによって、同窓会に対する注目度が高まり、さらに同窓会活動の活性化につながるものと考えております。ご協力をお願いいたします。

### □ 会費の払い込みと住所・勤務先等の変更届のお願い □

維持会費は、同窓会活動にとって極めて重要な財源です。

様々な活動の基になる同窓会名簿の管理、現役学生への支援、会報の発行、様々な行事の実施等の資金源となります。

本来、同窓会の経常的運営に必要な経費は、維持会費によって賄われるものといえます。残念ながら、実際はそれとはかけ離れた実態にあります。12期（平成27年8月～28年7月）で見ますと、一般会計の支出総額約3290万円に対し、維持会費収入は約670万円で、約20%にしかありません。財源の多くを入会金に頼っているのが、現状です。

同窓会の安定的運営のために、維持会費の納入のご協力をぜひお願いいたします。

維持会費は、年額3千円です。なお、終身会費制度もあり、3万円納

めていただきますと、以後年会費は納入不要になります。

会費につきましては、本会報に同封いたしました、「払込取扱票」（赤色で印刷された用紙）により納入をお願いいたします。払い込みは「郵便局」または「コンビニ」でお願いいたします。なお、利用可能なコンビニは、払込取扱票の裏面に記載されています。

住所等変更届は、変更があった都度、変更項目を明示のうえ、同封の「住所等変更届」の該当欄各項目を記載し、ファックスまたは郵便で一報ください。お手元に「変更届」がない場合は、メールでもかまいません。

とくに住所につきましては、一度途切れてしまいますと、それ以後会報等のお届けなど同窓会からの連絡手段がなくなり、いわば同窓会と絶縁状態になります。ご面倒ですが、ぜひご連絡をお願いいたします。

連絡先

首都大学東京同窓会事務局

〒192-0364 八王子市南大沢1-1-1

首都大学東京内

電話（FAX）：042-670-7702

FAX専用：042-677-2894

E-mail:tmu-al@tmu.ac.jp

担当：松浦・杉村

（参考）

首都大学東京同窓会規約抄

（会員の責務）

第6条 会員は、本会の事業に積極的に参加し、会費等の納入を果たし、住所・氏名及び勤務先の変更があったときは、速やかに変更事項を本会事務所に届け出るものとする。

（入会金）

第7条 本会の入会金は、2万円とし、大学の学部又は大学院に入学したときに納付するものとする。

（会費）

第8条 本会の会費年額は、次のとおりとする。

1. 正会員 3千円 ただし、3万円を一括納付することにより以後年会費を納付することなく、終身会員とすることが出来る。
  2. 特別会員 正会員に準ずる。
  3. 賛助会員 一口5万円
  4. 名誉会員 納付を要しない。
- （入会金・会費の不返還）
- 第9条 既納入会金、会費及びその他の拠出金は、これを返還しないものとする。

□ 海外在住または今後海外へ転勤等で在住されることに  
なつた方へ □

・同窓会報の送付について

残念ながら現在は財政上の理由により、海外へ会報の送付をしておりません。海外在住の方（あるいは今

後在住されることになった場合は、恐縮ですが、同窓会のHPに会報をアップしておりますのでそちらからご覧いただきたいと存じます。なお、ご希望の方には、留守宅等国内の住所にお送りします。

・海外同窓会のご連絡のお願い

首都大学東京同窓会の会員は、広く世界の各都市に在住しておられます。とくに、主要都市においてはかなりの同窓生が在住されていると聞かします。またそのような都市においては、同窓会員同士の集まりがもたれているのではないかと推測しています。

ここでお願いですが、各地の同窓会の情報を同窓会事務局あてにお知らせいただければ大変ありがたい存じます。今後、会報やHPに積極的に取り上げていきたいと考えております。今年、「シンガポール都立大・首都大学同窓会」の会合の様子が、HPや会報に掲載されるとともに、規約に定める各種同窓会に登録されました。それをご覧になった首都大学関係者の方から、現地政府関係機関の幹部をシンガポール同窓会に紹介したいとの連絡がありました。このように情報をいただき、それを発信することによってさらに新たなつながりができるといった循環が生まれることを期待しています。ご連絡ぜひお願いいたします。

## □会員の皆様へ

### 会費納入状況欄の説明

会報と一緒に送りしている「年会費納入状況」欄について、同封の赤色印刷の「会員の皆様へ」をご覧ください。

(1) 維持会費の払い込みは、郵便局だけでなくコンビニでもできます。

(2) 同窓会の年会費の納入状況は、年度（4月～3月）により管理しています。

会報は年二回（5月と11月）発行しており、その際、「会員の皆様へ」と払込票を同封いたしておりますので、これをご利用ください。

(3) 「納入状況」の表示について

納入状況については、お支払いいただいている方には、「納入状況」欄に年度ごとに「納入済」（終身会費を納入された方は「納入不要」）を印字しております。なお、納入状況は、毎年度3月31日現在、及び9月30日現在で記載しております。

(4) 次期以降2期以上の維持会費をお支払いいただいた方には、当同窓会の会員管理台帳上では、「預り金」として、従来と同様管理いたします。

(5) 同一年度内に重複（2回）して、払い込みをされた方については、当年度を含めて4年以内に未納の年度がある場合には、その年度分に充当させていただいております。また、未納がない場合には、「預り金」と

して、管理して、次年度になった時に、当年度分として入金処理をさせていただきます。

(6) 「個人情報保護」の観点から、払込票には、住所を記載しておりません。\*\*\*\*\*で表示しております。

## □寄付のお願い

新しい寄付制度は、これまで、延べ二千名の皆様から、約二千万円のご寄付をいただき、同窓会の財政安定に大きな力になっておりました。

大変ありがたく感謝申し上げます。第12期におきましても、300名を超える皆様方の協力をいただき、感謝いたしております（ご寄付いただいた方のご芳名は34ページ）。

前述のように、本同窓会は、維持会費収入が少ないことから、財政的にはきびしい状況にあります。

寄付金収入は、それを補うという点でも大きな役割を果たしております。しかし残念ながら、減少傾向にあります。

第9期は、5,932千円、第10期5,774千円、第11期3,834千円（10か月予算）第12期4,299千円となっております。

本来、経常的経費は、経常的な収入で賄うのが望ましいことは言うまでもありませんが、今の段階ではそのような状況になっておりません。将来的には、維持会費収入等の増大をはかって、寄付金は特定目的のた

めに使うのが望ましいと考えますが、当面は従来通り寄付をお願いする次第です。同窓会としまして、昨今の厳しい状況は承知しておりますが、大変心苦しいものがありますが、何卒ご協力のほどをお願いいたします。

## □褒賞などを受賞された会員をご存知の方は、ご連絡ください

毎年かなりの会員が、褒賞など受賞されます。会報の紙面でお祝い申し上げたいと考えますが、同窓会では、なかなか把握できません。

そのような情報をご存知の方は是非ご一報ください。

## □同窓会行事報告と予定

2016年

8月17日（水）第85回理事會

8月30日（火）会計監査

9月21日（水）第86回理事會

9月27日（火）平成28年度

10月13日（木）成績優秀者表彰式

10月13日（木）寄付講義

（2017年1月19日（木）まで

12回講義）

10月15日（土）～16日（日）

荒川キャンパス大学祭

10月15日（土）（第31回青鳩祭）

10月15日（土）

第13回評議員会荒川キャンパス

11月3日（木・文化の日）～5日（土）

南大沢キャンパス大学祭

（第12回みやこ祭）



11月5日(土) ホームカミングデー  
 (大学との共催)南大沢キャンパス  
 同窓会第13回総会・交流会  
 南大沢キャンパス

11月16日(水) 第87回理事会  
 2017年

1月18日(水) 第88回理事会  
 3月15日(水) 第89回理事会  
 3月下旬 スポーツ文化活動賞授  
 与式(従前のスポーツ文化活動  
 賞とファイティングスピリット  
 賞を統合後初めての授与式)

5月17日(水) 第90回理事会  
 7月19日(水) 第91回理事会  
 7月下旬 プロジェクト奨励賞の  
 授与(第5回)

□同窓会の学生への支援□

(1) ファイティングスピリット賞  
 (第8回)

2016年3月22日(火)  
 4団体・個人に対して授与  
 課外活動への支援

(2) 大学祭実行委員会等(60万円)  
 第30回青鳩祭(荒川キャンパス)  
 2015年10月17日~18日  
 第11回みやこ祭

(南大沢キャンパス)  
 2015年11月1日~3日  
 ●体育会本部(110万円)  
 対大阪府立大学総合競技大会  
 (第64回)

2016年7月1日~3日  
 大阪府立大学で開催

首都大学東京14勝18敗で4連勝  
 ならず(通算26勝34敗3引き分  
 け1中止)

(3) プロジェクト奨励賞  
 4団体に助成金を交付(50万円)  
 2016年8月3日(水)

(4) 大学との共催  
 ●スポーツ・文化活動賞  
 2016年3月22日(火)  
 3団体・1個人に対して9万円  
 を副賞として贈呈  
 ●就職活動への支援  
 OBによる就職活動相談として  
 2名の同窓生を派遣  
 同窓生就職先名簿の閲覧  
 (同窓会事務局)

□大学行事予定□

入試関係  
 センター試験  
 2017年1月14日(土)~15日(日)

前期入試  
 2月25日(土)~26日(日)  
 後期入試  
 3月12日(日)

卒業式(平成28年度学位授与式)  
 2017年3月20日(月)  
 東京国際フォーラム

入学式(平成29年度)  
 2017年4月7日(金)  
 東京国際フォーラム  
 第65回対大阪府立大学総合競技大会  
 2017年7月7日(金)~9日(日)

今年度評議員会、  
 荒川キャンパスで開催

例年、同窓会の評議員会は四ツ谷  
 駅前の麹町スクワールで開かれてい  
 ましたが、今年度は10月15日、青鳩祭  
 (健康福祉学部の文化祭)開催中の  
 荒川キャンパスで開催されました。  
 午後2時からの評議員会に先立っ  
 て、評議員のため特別にキャンパス  
 ツアーが企画され、見学希望の約50  
 人が荒キャンスタッフの案内で、実  
 習室を中心に学内を見学しました。  
 卒業後の実践に備えて、実物の機器  
 類が置かれた実習室では人体模型な  
 どを使った各種測定や介護入浴など  
 の実際を見学することができました。  
 午後2時から開催された評議員会  
 は1時間で終了し、別棟の食堂で懇  
 親のひと時を過ごしました。



青鳩祭、イベントステージの一コマ



競技チアリーディングチーム  
 "WILD BOARS"の模範演技

今年度同窓会総会、  
 南大沢のみやこ祭で開催

2016年11月5日午後、大学の  
 文化祭(みやこ祭)でにぎわう南大沢  
 キャンパスで同窓会総会開催。黒石  
 会長のおいさつに続いて同窓会活動  
 報告と先に評議員会で承認を得た12  
 期決算と13期予算案の報告があり、  
 閉会后、参加者はルヴェンソングエー  
 ルでの懇親会で旧交を温めました。  
 会期中好天に恵まれたみやこ祭は  
 連日大賑わいで、3日間で約4万6  
 千人の入場者があり、各クラブや研  
 究室の展示・模擬店は大盛況でした。  
 南大沢駅に続く南門に近い1号館  
 108教室では野波健蔵千葉大名誉教授  
 (本学大学院卒)による同窓会主催  
 の講演「ドローンの衝撃と近未来」  
 も行われ、近年話題を集めるドロー  
 ンの話とあつて、大勢の聴衆が先生  
 の講演に耳を傾けました。

## 第12回首都大学東京同窓会評議員会 議事録抜粋

本文中(資料参照)とあるのは、当日配布された資料参照の意味です。

日時 2015(平成27)年10月8日(木)

18時30分～19時35分

場所 四谷 スクワール麹町

出席者 会長1名 副会長2名

評議員73名 委任状49名

合計140名

定足数72名

事務局2名

### 一、開会

仮議長 野原 剛理事(都理・化学4期)  
により開会が告げられた。

### 二、議長選出

大塚昶乃助副会長(総務委員長 都法経・法学6期)が議長に選ばれ、定足数を確認後、森 忠保理事(企画委員長 都理・物理14期)が書記に指名された。

### 三、第11期活動報告

黒石 輯会長(都法経・経済14期)が挨拶並びに第11期活動報告を行った。

### 「挨拶の概要」

不慣れな会長職の2年間、評議員各位のサポートに感謝する。川渕三郎理事長、上野 淳学長との紐帯関係の強化に努めてきた。校名や学部名の変更要請に理解を得つつある。

ワンゲルOB会や絵画のクラブ活動等に参加し、同窓の皆さんが、生き生きとされている姿に感銘した。

こういう活動が、充実していくことを期待したい。

同窓会の行事には、首都大学東京の母体の4大学の卒業生が、分け隔てなく多数参加されるよう願っている。

引き続き配布資料に基づき活動報告が行われた。

### 四、議題第1号議案 第11期決算報告(案)

吉田俊雄財務委員長(都理・数学19期)より説明された。

### 概要

今期は10か月決算で変則的であった。

特別会計を設けて繰り入れを行い、一般会計の収入・支出が同額になるようにした。特別会計の寄付をどのように増やすかが今後の努力目標である。

同窓会への入会率は6割前後である。

次に、八雲クラブの特別会計が説明された。

財産目録は配布資料のとおりである。

次年度繰越金について説明された。

### 第11期会計監査報告

加藤充子監事(都法経・経済9期)より、監査を8月26日に八雲クラブで行い、資料のとおり適切に処理されていることが報告された。

以上、第1号議案について大塚議長が質疑を求めた。

質問もなかったので直ちに採決に移り、満場一致で承認された。

### 第2号議案 第12期予算(案)

引き続き吉田財務委員長から説明された。

収支のバランスを重視して計画を立てた。前期を踏襲して組んだ。ただし次期は大

阪府立大学戦が大阪で行われるので、その分増額をしてある。

引き続き事業計画の説明が行われた。

11月1日から3日に行われる大学祭に併せて、大学と同窓会の協賛でホームカミングデーを計画している。

卒業生名簿の入手に努めたい。

維持会費の増額を目指したい。

引き続き、黒川 信副会長(都理・院生

物28期)よりホームカミングデーについての補足説明がなされた。

91年館で企画展が開かれる。オープンラボラトリーをしているので、奮って参加してほしい。

大塚議長から、平成28年1月の新年会は行わない。11月3日に総会を行なう旨の補足説明が行われた。

以上第2号議案について大塚議長が質疑を求めた。

質問 吉原 信男氏(都理・化学11期)より、収支をゼロにすることは、あまり見られないが、その主旨はどの質問があった。

解答 吉田財務委員長より、一般会計の収支はゼロで運営することを基本にしている。不足分については、寄付の受け入れを管理する特別会計から繰り入れることで、不足分を明確にした。

大塚議長より追加説明があった。

赤字をつくらない、先輩の浄財を減らさない、等の理由で特別会計がつくられた。

特別会計の寄付を収入として、学生支援、活動資金にした。

質問 中村 直英氏(都法経・法律25期)より、ホームカミングデーの周知がなされていない。自分の仲間5人の全員が知らない。どこまで連絡したのか。

解答 黒川副会長より、「第1回なので周知が不十分だった。今年の4月に開催が決

まったので、周知期間が短かった。来年からは早くから準備を開始したい。ホームカミングデーはこの大学でも開催されている。会報には裏表紙に掲載した。

大塚議長から、ホームページにも掲載されている旨、説明があった。

質問 橋田 祥子氏(都工・院建築48期)より、八雲サロンの南大沢に作ってほしいとの意見が出された。

解答 黒石会長より、同窓会館をつくってこれとの意見もある。南大沢は遠いので大学に家賃を払わなくてはならないのでむつかしい。

末光正忠イベント委員長(都人文・心理20期)より、「八雲クラブは同窓会館の代わりに取得したと考えてください」との説明がなされた。

議長は、会場からの質問が終了したことを確認して、採決に移り、満場一致で承認された。

### 第3号議案 理事・幹事の改選

大塚選挙管理委員長から理事の定足数について次のような説明があった。

都立大、青鳩会は投票が行われた。科技大は投票が行われなかった。選挙の結果は別紙配布資料のとおりである。都立大学は上位12名、青鳩会は上位2名、科技大は無投票で2名、首都大学東京は1名が当選した。残りの定足数については配布資料のとおり推薦された。

引き続き大塚議長より「別室で新理事による会長等の選出のため、暫時休憩に入る」との説明がなされた。

新理事は臨時理事会開催のため別室に移

動した。

理事が評議員会会場に戻り、評議員会が再開された。

臨時理事会の結果を澤井 泰理事（都法経・法学12期）が報告した。

会長には、黒石 輯氏（都法経・経済14期）が再任された。

会長より就任の挨拶および次の4名の副会長が報告された。

黒川 信氏（都理学・院生物28期）  
林 正弘氏（都法経・経済14期）  
西形 勝宏氏（医技短・放射線1期）  
榎本 昌史氏（科大・機械7期）

引き続き監事の推薦が行われ、村山 祥彦氏（都人文・経済5期）より、現在の監事である次の3氏の留任が提案された。

### 第12回首都大学東京同窓会総会 議事録抜粋

（文中（資料参照）とあるのは、当日配布された資料を参照の意味）

日時 2015年11月3日（火）

会場 首都大学東京南大沢キャンパス  
国際交流会館 大会議室

出席者 会長 副会長3名  
理事 評議員 正会員 計120名  
事務局2名

#### 一、開会

関根紀夫理事（医技短1期）が開会を宣言した。黒石 輯会長が議長席に着き、規定により黒石会長が議長となり、河口 修理事（都20期・院電気）を書記に指名した。

#### 二、会長挨拶・活動報告

規約により黒石 輯会長より挨拶があり、続いて会長が議長となり前回総会からの10か月間の同窓会の活動が報告

加藤 充子氏（都法経・経済9期）  
君和田洋之氏（科大・電子6期）  
古川 順光氏（医技短・理学3期）  
ここで3氏の就任が満場一致で承認された。

加藤監事から自席で就任の挨拶が行われた。

#### 第4号議案

事務局から、つぎの報告がなされた。  
茂木 俊彦元総長が9月15日に亡くなった。11月29日（日）に、全国町村会館で別れ会が行われる予定。

#### 五、閉会

19時35分 大塚議長が評議員会の閉会を告げ、引き続き別室にてなごやかに懇親会を行った。

された（資料参照）。

・会長挨拶（要旨）

総会が1月の繁忙期に開催されるのを避けるため、2か月総会を前倒し、大学祭にあわせて次期総会を11月3日に開催することが説明された。

次に、前回総会からの1年間の同窓会の活動が報告された（資料参照）。

質疑は次の議題の後でまとめて行うこととした。

#### 三、評議員会報告（資料参照）

大塚昶之助評議員会議長（都6期・法）が次の評議員会報告1〜3項を説明された。

(1) 第11期（平成26年10月1日〜平成27年7月31日）決算について

第11期は、規約改正により10か月の

会計期間であった。  
(2) 第12期（平成27年8月1日〜平成28年7月31日）予算について

(3) 理事・幹事の選任について  
ここで黒石議長が質疑を求めた。特に質問はなく、拍手多数により評議員会報告は承認された。

#### 四、閉会

黒石会長が閉会を宣言した。  
続いて、ルヴェンヴェールで交流会が和やかに行われた。

#### 楽しみな同窓会報

御厨 貴  
みくりや たかし  
（東京都立大学名誉教授）

いつも会報をお送り頂きありがとうございます。時折「都立大で先生の講義をうけました」という卒業生に会います。若き日の拙い講義を思い出して赤面しますが、なつかしい思いに触れる時でもあります。お礼まで。

#### 訂正とお詫び

同窓会報第11号で、楠川元総長の逝去日を2015年7月1日としていましたが、2015年6月30日の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

#### 2016年4月1日付 首都大学東京名誉教授称号授与者

氏名	所	属	氏名	所	属
伊藤 眞	都市教養学部人文・社会系	社会学コース	奥村 次徳	都市教養学部理工学系	電気電子工学コース
前澤 伸行	都市教養学部人文・社会系	国際文化コース	山崎 晴雄	都市環境学部	地理環境コース
渡部 桃子	都市教養学部人文・社会系	国際文化コース	芳村 學	都市環境学部	建築都市コース
梅田 雅信	都市教養学部経営学系	経営学コース・経済学コース	今中 國泰	大学教育センター	
岡田 正巳	都市教養学部理工学系	数理科学コース			

# 寄付金受領のお礼

収支改善委員会のご報告とお願い

維持寄付へのご賛同有難うございました。

財務委員会委員長 吉田 俊雄 (都19・数学)

新しい寄付制度による「維持寄付」については、皆様のご協力により、終身会費の納入後10年以上経過された方々約8,000名のうち、制度創設以来、約2,000名を超える皆様から、約2,000万円近いご寄付を頂きました。

同窓会の収支の改善に、大きな力となっております。

大変ありがたく、感謝申し上げます。今後とも、なにとぞ、多くの皆様方のご協力をお願いいたします。

特に、現役学生に対する支援は、同窓会としても、積極的に行うことを目的にしておりますので、目的寄付につきましても、より一層のご協力をお願いいたします。

第12期(2015.8.1～2016.7.31)の実績は、下記のとおりです。

(参考)

## I 維持寄付

1. 終身会員で10年以上の方 363名 247万円
2. その他の方 130名 約 81万円

## II 目的寄付

61名 約102万円

(人数は、延べ人数です)

## III 名簿

1. 維持寄付名簿(終身会員で、納入後10年以上経過された方々です。)
2. 目的寄付名簿
3. 維持寄付名簿(上記以外の方々です。)

## 終身会費を納入後10年を経過した会員へお願いした「維持寄付」 2016年7月31日現在

氏名	卒期	学科	池内	弘	7	電気	中村	宣	男	11	建築	高橋	拓	夫	15	経済	相澤	園	子	20	英文	
桑野	英彦	1	経済	大矢	享	7	電気	海谷	篤	11	工化	松浦	知	彦	15	経済	小川	千	代	20	英文	
初見	清守	1	経済	曾根	隆	7	電気	小島	龍	11	工化	猪俣	芳	栄	15	化学	吉田	文	夫	20	経済	
水沼	重雄	1	物理	宮崎	正道	7	工化	西山	好	11	工化	藤井	利	宣	15	化学	和田	啓	壹	20	建築	
山口	力普	1	物理	近藤	裕	8	中文	須磨	一	12	独文	小林	弘	敏	15	機械	寒河	江	啓	壹	20	建築
渡部	孝二	2	物理	岡崎	栄	8	経済	木村	清	12	法学	丸山	敏	一	15	機械	村松	紀	純	20	建築	
東郷	一敏	2	電気	蒲田	哲	8	経済	黒田	房	12	化学	山田	一	昭	15	土木	成瀬	純	壹	20	法律	
長島	健一	2	化学	大川	時	8	物理	金田	江	12	化学	高匠	東	亞	15	土木	細田	信	行	21	法律	
見城	京子	2	化学	山田	二	8	化学	若原	治	12	電気	小野	田	忠	15	工化	清水	信	行	21	経済	
中村	正雄	2	工化	井澤	浩	8	機械	池田	信	12	土木	杉野	高	欣	16	中文	細田	隆	一	21	数学	
君島	久信	2	中文	栗山	登	8	機械	進	祥	12	工化	浜本	正	彬	16	法律	大原	秀	繁	21	電気	
都留	信夫	3	英文	光藤	昭	9	工化	園	典	13	人類	岡本	博	昌	16	経済	池田	敏	充	21	土木	
井坂	省三	3	経済	金子	総	9	経済	榎原	圭	13	法学	倉橋	昌	司	16	化学	柴神	三	威	21	建築	
丸木	眞二	3	経済	近藤	泰	9	経済	福田	圭	13	法学	今井	信	一	16	機械	石井	和	夫	22	工化	
千谷	比良	3	化学	山口	武	9	経済	松沢	力	13	法学	横川	昭	夫	16	機械	岡本	秀	夫	22	経済	
市川	亘	3	生物	堂本	一	9	物理	喜多	允	13	経済	岡野	重	範	16	土木	片平	秀	夫	22	経済	
足立	保治	3	機械	小倉	幸	9	化学	小林	慶	13	物理	小川	雄	二	16	土木	伊藤	勉	茂	22	物理	
小澤	和郎	3	建築	吉田	博	9	化学	横井	健	13	生物	高木	攻	一	16	土木	八木	光	茂	22	化学	
笹川	正章	3	建築	山崎	健	9	電気	小林	温	13	機械	相沢	ま	ち	17	英文	辻村	孝	一	22	生物	
吉岡	英一	4	工化	中村	文	9	電気	原嶋	和	13	機械	柳原	喜	代	17	法律	栗山	孝	一	22	機械	
上田	敏功	4	経済	井町	弘	9	土木	村上	治	13	機械	山崎	正	平	17	生物	朝比	奈	美	22	土木	
望月	功	4	経済	大庭	克	9	土木	井	義	13	土木	川島	正	晃	17	電気	内山	津	三	23	建築	
佐野	淑子	4	化学	小熊	喜	9	建築	徳留	孝	13	土木	梶	寛	昭	17	機械	福山	善	生	23	経済	
藤田	彰久	4	生物	菅野	章	10	東	豊島	直	13	土木	岡本	武	17	土木	土木	小	善	靖	23	化学	
澤田	光雄	4	電気	木村	義	10	経済	志波	高	13	建築	田中	喜	代	18	社会	星名	健	二	23	機械	
仁科	功	4	電気	高野	東	10	経済	高橋	昭	13	建築	加藤	純	朗	18	社会	星名	仁	宣	23	電気	
鈴木	幸民	5	建築	程原	保	10	経済	平岡	賢	13	工化	浅岡	信	一	18	国文	佐藤	正	巳	24	建築	
加藤	周亮	5	工化	鈴木	幸	10	化学	森	洋	14	社会学	倉部	勇	夫	18	法律	渡辺	正	晃	24	建築	
池田	英明	5	法学	沖野	武	10	生物	中西	昇	14	史学	皆川	正	実	18	法律	村山	あ	き	24	政治	
石田	桂吉	5	法学	水野	則	10	電気	川辺	輯	14	法学	岡田	掌	久	18	数学	戸田	あ	き	24	経済	
後藤	英明	5	法学	村井	潔	10	電気	黒石	護	14	経済	下田	稔	宏	18	数学	檜山	益	隆	24	経済	
出山	桂吉	5	英文	川島	秀	10	工化	谷崎	久	14	数学	佐々	憲	一	18	物理	安	隆	介	24	物理	
鈴木	貞純	5	物理学	小浜	辰	11	工化	大岡	正	14	物理学	尾部	憲	一	18	物理	伊藤	清	直	24	物理	
久木	成雄	6	物理学	吹田	秀	11	国文	藤	己	14	物理学	三上	昌	宏	18	電気	藤田	清	直	24	物理	
小高	与市	6	経済	赤津	千	11	経済	近藤	元	14	機械	田川	昌	章	18	土木	加藤	繁	夫	24	化学	
桐生	陽博	6	経済	田代	瑛	11	経済	佐藤	知	14	機械	次田	守	隆	19	土木	津波	泰	夫	24	機械	
横井	博一	6	数学	吉本	幸	11	経済	中島	行	14	機械	神田	辰	治	19	工化	茂木	那	智	24	建築	
平野	大輔	6	化学	吉原	信	11	経済	高瀬	美	14	電気	原	辰	治	19	法律	山本	え	清	24	建築	
小椋	泰隆	7	英文	吉合	昭	11	化学	松尾	靖	14	電気	山本	英	二	19	法律	阿南	清	勝	25	英文	
新井	隆包	7	物理学	河名	久	11	機械	中嶋	康	14	土木	金子	賢	治	19	政治	高橋	勝	貴	25	数学	
澤田	文彦	7	化学	横手	公	11	機械	渡辺	安	14	建築	高間	政	美	19	工化	吉山	貴	史	25	物理	
赤沼	文彦	7	化学	宇川	明	11	電気	宮川	路	15	心理	正路	哲	司	19	工化	栗原	幸	光	25	化学	
武居	文彦	7	化学	長田	貴	11	電気	萩原	妙	15	心理	小口	康	19	電気	坂本	光	司	25	土木		
蒔田	實	7	化学	森	佐	11	電気	倉持	清	15	経済	長嶋	康	19	土木	渡辺	謙	二	25	建築		

小檜山	國子	26	国文	小島	や	子	28	法律	歌川	さ	と	31	法律	中台	佳	35	物理	陸川	浩	44	電理
加藤	裕一	26	法律	手嶋	和	俊	28	法律	藤居	洋	史	31	政治	高橋	賢	36	教育学	村藤	子	44	地生
成山	修由	26	法律	山口	成	一	28	法律	佐鳥	隆	隆	31	生物	根岸	史	36	史学	田山	明	45	地生
南澤	由治	26	法律	村江	薫	志	28	法律	柴田	正	敏	31	機械	赤松	麗	36	英文	山田	導	45	土木
小宮	謙治	26	経済	黒江	尚	志	28	経済	高橋	秀	雄	31	電土	野元	道	37	経済	川宮	和	46	法律
荒川	秀貴	26	物理	向井	裕	史	28	経済	神作	稔	稔	31	土木	松岡	邦	37	化学	泉	美	46	経済
室橋	真章	26	地理	若井	隆	男	28	経済	大塩	水	子	32	工化	山井	愛	37	地理	菅野	洋	47	経済
光里	実道	26	電建	金坂	亮	准	28	数学	田柳	桂	司	32	地学	大野	裕	37	機械	宮崎	潤	47	物理
古岡	治義	27	工化	大竹	敏	行	28	建築	野矢	高	己	32	電気	笹山	博	37	土木	野南	郎	48	機械
石嶋	久裕	27	心理学	渡辺	規	之	28	建築	金子	諭	太	33	史学	宮田	一	37	土木	永島	祐	48	材化
林嶋	耕政	27	国文	染木	学	弘	29	工化学	富田	亮	春	33	英学	新井	喜	38	工化	鈴木	慶	49	経済
小檜山	敏弘	27	英文	大齋	学	孝	29	機械	金山	太	春	33	生物学	猪和	人	39	法律	川藤	恵	49	工化
稲見	悦子	27	法律	吉田	英	敏	30	工化	直内	大	暁	33	建築	菊地	修	39	政治	安藤	彰	50	教育
石橋	美子	27	法律	福田	健	一	30	英文	山内	邦	進	34	法律	丹野	直	39	数学	佐竹	信	50	経済
大竹	寛美	27	経済	米丸	伸	昭	30	英文	高橋	都	司	34	法律	宮岡	明	39	化学	本城	宏	50	経済
福田	寛真	27	数学	佐原	光	洋	30	数学	岩崎	賢	治	34	機械	高橋	之	40	法律	田本	清	51	物理
福橋	真卓	27	電気	川崎	龍	太郎	31	心理学	櫻井	光	治	34	工化	本女	誠	40	物理	津田	忠	51	機械
明嶋	真一郎	27	土木	高田	昌	孝	31	史学	横井	洋	樹	34	工化	田部	裕	40	機械	本垣	保	51	物理
川田	久	28	史学	河野	弘	子	31	史学	安藤	保	圭	35	心理学	長嶋	一	41	法律	梅本	み	55	機械
富本	久	28	史学	澤三	子	弘	31	史学	藤藤	太郎	克	35	経済	池田	二	42	社会	津田	直	55	機械
湯本	久	28	史学	野吉	子	弘	31	史学	谷川	孝	克	35	経済	清水	幸	42	法律	榎梅	智	55	機械
林	久	28	史学	野吉	子	弘	31	史学	大野	孝	克	35	経済	児玉	貴	44	心理学	工崎	直	55	機械
	久	28	史学	野吉	子	弘	31	史学	大野	孝	克	35	経済	近藤	み	44	法律	岡崎	直	55	機械
	久	28	史学	野吉	子	弘	31	史学	大野	孝	克	35	経済	近藤	み	44	法律	藤崎	直	55	機械
	久	28	史学	野吉	子	弘	31	史学	大野	孝	克	35	経済	近藤	み	44	法律	藤崎	直	55	機械

2. 学生支援を目的とする「目的寄付」 \* 大学名無しは旧都立大学、医は旧医療技術短大、科は旧科学技術大学、首は首都大学東京の略

氏名	卒期	学科	小松	芳雄	11	経済	吉田	晃	15	物理	小島	や	す	28	法律	菊地	修	39	政治
古賀	信行	1	工化	戸田	正	電	岩丸	了	15	土木	土屋	徳	寿	30	土木	本田	誠	40	物理
若林	京子	2	化学	田崎	史	化学	浜本	欣也	16	法律	川上	朝	子	31	史学	鈴木	伸	43	心理
吉岡	正章	3	工化	小野田	博	機械	堀	那華	17	化学	藤森	理	子	35	生物	菅田	美	46	経済
戸澤	満智	5	化学	高野	六	機械	山崎	喜代	17	生物	中村	純	子	35	英文	後藤	篤	46	工化
榎本	稔	6	工化	川辺	昇	法学	内山	美津	23	法律	福島	能	彰	35	機械	武小	瑞	56	法律
澤井	泰	7	工化	黒石	一	経済	福山	ど	23	経済	根岸	史	36	史学	根	祐	56	航空	
光藤	康	9	社会	黒内	芳	英文	小山	善	23	化学	平山	英	敏	39	中文	小袁	祐	56	建築
高橋	清治	9	法学	藤井	利	化学	吉田	喜	23	機械	大和	和	代	39	法律				
木村	由紀	11	英文	松浦	知	経済	室橋	真	26	地理	菊地	可	納	39	法律				

3. 目的を定めない一般的な「維持寄付」 \* 大学名無しは旧都立大学、医は旧医療技術短大、科は旧科学技術大学、首は首都大学東京の略

氏名	卒期	学科	高橋	清治	9	法学	時	寛	13	土木	里吉	健	治	22	機械	大森	保	32	法律
銭谷	徹	1	機械	清	9	機械	三條	洋	13	建築	岡末	眞	純	22	土木	江原	美	32	経済
長谷部	和夫	1	土木	義典	9	土木	黒	次郎	13	建築	平	幹	雄	22	工化	高石	勝	33	機械
廣瀬	太郎	2	経済	清	9	工化	下	雄一	14	経済	林	忠	行	23	法律	尾上	志	34	法律
米満	澄	2	物理	健	10	経済	田口	裕	14	経済	吉田	喜	一	23	機械	中村	純	35	英文
大瀬	忠夫	2	電気	義信	10	経済	林	正弘	14	経済	荻原	信	吾	24	仏文	福島	能	35	機械
那須	貞美	3	史学	喜代	10	物理	加島	聰	14	土木	渡辺	俊	夫	24	機械	濱下	優	35	土木
岡本	芳	3	機械	正嗣	10	工化	森脇	靖	14	生物	齋藤	誠	彦	24	電土	平山	治	37	機械
中島	泰	3	工化	義哉	11	法学	木下	喜久	14	機械	原	敏	彦	24	土木	平山	英	39	中文
大池	秀夫	4	経済	繁夫	11	経済	吉田	晃	15	物理	久保	勉	25	数学	大和	和	39	法律	
神足	勝文	4	機械	久一	11	経済	白銀	征	15	機械	渡辺	謙	二	25	建築	池田	哲	40	社会
深野	愛蔵	4	建築	誠一	11	英文	鳴島	敦	16	政治	池田	桂	茂	26	法律	鈴木	純	42	土木
雨宮	敏明	5	経済	淳	11	機械	濱田	唯允	16	経済	小林	文	明	26	機械	後藤	篤	46	工化
澤雨	洋	5	化学	誠	11	電気	佐々木	敏	16	電気	小島	孝	育	27	独文	岩谷	純	47	建築
神山	弘明	6	土木	正之	11	電気	山崎	喜代	17	生物	北原	瑞	代	27	物理	藤澤	康	51	建築
辻本	録郎	6	経済	巖	11	建築	喜入	博	17	地理	長谷川	佳	代	27	物理	野口	賢	54	政治
中杉	信行	7	機械	廣光	12	物理	佐野	順	17	建築	小島	隆	男	28	経済	竹内	希	54	経済
牧田	文彦	7	化学	保則	13	社会学	鈴木	一	18	経済	若井	真	一	29	物理	武藤	枝	56	法律
武居	一雄	7	電気	邦弘	13	物理学	新保	利	18	機械	森田	恒	生	29	土木	桑野	嘉	56	工化
榎本	哲	8	経済	紀彦	13	物理学	庄子	友	20	政治	植村	仁	30	法律	浦太	裕	56	管理	
遠藤	暢	8	物理	直	13	機械	田上	俊	20	機械	辺見	京	一	30	経済	和田	美	56	工化
石井	良治	8	機械	六	13	機械	才川	忠	20	土木	土屋	義	仁	30	土木	田和	子	56	看護
遠藤	善昭	9	法学	治	13	機械	笹川	耕	21	地理	橋本	公	一	30	工化				

## 訃 報

ご逝去された名誉教授の方々及び事務局にお知らせのあった同窓の方々を謹んでご報告申し上げ、  
心からの哀悼の意を表します。 (2016年8月31日現在)

氏 名	所 属	逝去年月日	氏 名	所 属	逝去年月日
慶 谷 壽 信	名 誉 教 授 (都立大人文学部)	2016. 05. 27	下 元 敦 司	都45・工・電情	2016. 04.
			伊 藤 精 計	都01・人文・経済	2016. 05. 05
大 村 晴 雄	名 誉 教 授 (都立大人文学部)	2016. 04. 07	明 石 勝 巨	都15・法・法律	2016. 02. 15
			須 賀 貴 久	都23・法・法律	2016. 04. 28
佐 川 雅 彦	名 誉 教 授 (都立大工学部)	2016. 01. 22	建 部 正 憲	都45・理・化学	2015. 09. 30
			渡 邊 靖	都02・理・物理	2016. 05. 21
天 野 耕 二	都22・理・化学	2015. 12. 11	服 部 健	都02・工・機械	2016. 02. 29
松木谷 信 男	都05・人文・経済	2016. 04. 01	平 野 博 子	都06・理・数学	2015. 09. 25
早乙女 忠	都01・人文・英文	2016. 04. 13	小 山 芳 雄	都20・工・建築	2010. 07. 02
堀 江 忠 司	都09・法経・法学	2016. 04. 09	稲 葉 定 司	都01・人文・法学	2016. 03. 10
堀 江 朝 子	都31・法・法律	2016. 04. 15	川 畑 諒	首SD航空宇宙システム工学コース	2014. 05. 03
伊 達 英 雄	都09・法経・法学	2016. 05. 11	田 邊 芳 雄	都02・理・化学	2016. 03.
小 森 清 司	都03・工・建築	2016. 02. 15	内 山 皓 司	都08・工・工化	2016. 04. 14
岸 川 脩	都08・法経・法学	2016. 03. 15	小 嶋 和 夫	都07・法経・経済	2015. 07. 19
堀 口 清	都21・法・法律	2015. 12. 14	関 口 敏 郎	都07・工・建築	2015. 12.
山 本 隆	都15・理・物理	不明	川 崎 嘉 元	都14・人文・社会	2015. 11. 24
飛 田 忠 諄	都13・法経・経済	2011. 04. 08	深 野 松 三	都04・理・物理	2016. 03. 10
李 炳 潤	都02・人文・経済	2015. 12. 20	古 田 幸 男	都01・人文・仏文	2014. 04. 08
本 松 雅 長	都02・工・建築	2015. 03. 08	榛 葉 忠 弘	都02・人文・法学	2015. 07. 26
安 井 靖 忠	都06・法経・経済	2015. 12. 17	村 武 精 一	都05・院社・人類	2016. 04. 08
小野寺 敬	都06・工・電気	2015. 12. 07	福 田 真 実	都33・院人・心理	2008. 05. 11
立 花 祐 一	都20・工・建築	2014. 07. 20	増 田 廣 實	都06・院人・日東	2016. 06. 05
石 橋 章 夫	都33・法・法律	2006.	水 野 武 則	都10・工・電気	2016. 06. 14
国 広 俊 文	都05・人文・経済	2015. 01. 12	水 嶋 栄 二	都02・人文・経済	2015. 09.
小 林 郁 夫	都06・人文・心理	2016. 01. 11	青 木 正 樹	都13・院人・仏文	2016. 02. 17
榎 本 雅 敏	都06・理・生物	2014. 05. 20	清 水 敬 三	都09・法経・法学	2011.
堀 江 正 恭	都06・工・電気	2014. 06. 05	山 下 智	都37・理・化学	2016. 06. 29
荒 木 匡	都07・理・化学	2015. 02. 08	忠 内 利 一	都02・人文・法学	2016. 01. 25
上 田 耕 一	都10・工・機械	2015. 08. 24	永 井 永	都08・法経・法学	2009. 06.
新 谷 勝	都11・法経・経済	2016. 03. 31	中 馬 清 福	都08・人文・中文	2014. 11.
青 木 統 夫	都12・院理・数学	2016. 02. 20	山 崎 建 次	都08・理・生物	2013. 04. 03
山 内 聡	都13・工・電気	2015. 04. 16	甲 斐 昭	都08・工・工化	2016. 05. 12
川 口 摩利夫	都20・理・物理	2015. 10. 04	森 岡 恒 夫	都02・工・建築	2016. 05. 26
足 立 亘	都03・工・機械	2016. 02. 09	牧 原 憲 夫	都15・人文・史学	2016. 07. 20
村 武 慶	都10・人文・社会	2016. 03. 01	藤 井 満	都05・工・工化	2015. 08. 06
栗 田 直三郎	都13・工・電気	2015. 11. 24	加 藤 芳 雄	都08・工・工化	2015. 03. 04
安 澤 秀 樹	都39・経・経済	2010. 10. 19			

- 
- 
- 

八雲三六会（都9期・理・化同期会）

1961（昭和36）年に学窓を出たとき41人だった同期生は、卒業後50数年を経た現在、8人が鬼籍に入り33人となった。全員が息災とはいえないまでも、それなりに自立した生活を送ることができ、毎年の同期会で絆を確かめあえるのは幸せだ。

すでに年金生活者となったいま「ふとこころに合わせた会合を」と考え、渋谷の同窓会施設（八雲クラブ）での会合となった。下世話な話で恐縮だが、レストランやホテルでの開催に比して、半額以下、場合によっては4分の1程度の会費で開くことができるのも「自前の集會室」を持つ強みだ。さしもの猛暑も過ぎた9月29日正午、同級生は三々五々集合し、10人の顔がそろった。

渋谷の街は「シブ谷」の字名が示す通り江戸時代からの谷あいの集落地がそのまま繁華街に発展した関係で、狭くて急な路地が入り組み、八雲クラブになじみのない人たちにはわかりにくい。それでも待つほどの間もなく、全員が顔を合わせ例会は始まった。

同級生というのは異なるもので、顔にしわが増え、髪の毛も白くなったり、少なくなったりしていても、話しているうちに脳裏にはあの若き日の悪友の面影が再現されるから不思議だ。

「10人の会合にしてはやや少ないか？」と心配しながら用意した昼食や飲料、つまみ類だったが、60年前の大食ぶりはどこかに姿をひそめ、適度に売り切れとなった。

つるべ落としの秋の陽が西に傾くころ、来年の再会を約して家路についた。

（根谷崎武彦 記）



八雲三六会（2016.09.29・渋谷八雲クラブ）

- 
- 
- 

ご存じですか、江戸小彼岸桜？

毎年、4月上旬になると、国際交流会館の前庭にはさわやかなピンク色の花がつく、エドコヒガンサクラが咲いています。牧野富太郎博士の命名による貴重なサクラです。同窓生みなさんにぜひ知っていただきたいと考えて冒頭に記しました。

理学部化学科の3,4,5期の同窓生が大学移転にあわせて記念事業をと考え、さわやかな植樹を行いました。

総長が化学の佐野博敏先生であったこともあり、無理をお願いして記念の銘板に一筆書いていただきました。

説明はこのくらいにして、3,4,5期の化学科のみなさん来春には、サクラの木の下で元気な姿をみせてもらえませんか。3,5期の幹事は承知しておりますが、いつものことながら、総合幹事は4期の野原が担当します。いずれ年が明けたら何らかの方法でご案内したいと思っています。

ご不明の点は、野原宅の電話（Faxも可）にお願いします。ここには記しませんが、みなさんご存じだと思います。

花がついていませんが、最近のサクラの木の写真を掲載します。化学科の同窓生みなさんの元気な顔を見せていただき、懐かしい先輩・後輩との対話を楽しんでください。（野原 剛 記）





#### 第四回 都立大学・学生交流会の集いを開催

2年毎に開催される学生交流会 OB 会が、今年は『学生交流会の集い』と名称を変えて、去る6月25日(土)の午後 八雲クラブにて行われました。約40年前に解散している学生交流会は新入の会員がなく、現在約100名の会員数です。会員の高齢化もあり、また種々の理由で参加者の数が減り、20名の出席となりました。女性の参加者が“ゼロ”であったのが残念でしたが、皆 意気軒高で、大いに盛り上がった催しとなりました。

鈴木隆夫会長(都9期、理・生物)の挨拶や乾杯などに続き、自由懇談に移り、お互いの近況などを語り合い、会は進行しました。

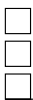
後半はテーブルを全員がお互いの顔が見えるように口の字形に変えて、体験談交流の場となりました。

まずは会長から、昨年の首都大学東京の大学祭「みやこ祭」を訪れた時に感じたという“我々の世代と今の若い世代の大学祭に対する向き合い方の違い”や若い世代に伝えたい思いを近々本に纏めて出版するとい

った話がありました。その後、長谷川幹事(都18期、法経・法)の巧みな司会で、多くの人から“今どんな活動をしているのか。どんな事に生き甲斐を見つけているのか。どんな事を考えているのか。”などについて話が出て、昔の学生時代に戻ったような、話し合いの場となりました。

和気あいあいとは進行し、終了予定時間の4時半を超えて5時過ぎまで話が盛り上がりましたが、2年後の再会を約して閉会となりました。

(文責 都16期、工学・工化 田中 信廣)



#### 硬式庭球部の恒例「OLD・OB・OG会」の開催

毎年恒例の OLD・OB・OG 会を7月23日(土)に開催する事が出来、なんと24回を数えることになりました。これもひとえに OB・OG と現役の方々のお陰と感謝しております。曇天の一日、例年と違い、午後2時半を過ぎてもコートでテニスを楽しんでいました。

3時過ぎに学生食堂で懇親会が始まりました。冷たいビールとつまみにそこ・ここで話の輪が広がりました。

た。侃々諤々の様は突如数10年前の若き時代に戻ってました。

今年には新会長に中里幸康氏、新会計に堀越俊明氏の人事がありました。新幹事の下、40数年振りに OB・OG 会費をお願いする事になりました。年が明け次第準備にかかります。是非ご寄付をお願いします。

幹事長(留任) 嘉向 嘉伸(都18期・経済)

e-mail:kamuki.1203@softbank.ne.jp

090・9681・4479





# TMU PLAZA

- 八雲カフェバー
- 「行くところがある」「会う人がいる」

毎月第4水曜日、午後6時から9時、アルコール付きの自由なサロン「八雲カフェバー」を2月から始めました。「行くところがある」「会う人がいる」をコンセプトに、第2水曜日の八雲サロンとは趣を変えて、自由で楽しい歓談の場にしようとして毎回工夫しながら開催してきました。4回目となる今回(2016年5月25日)は本場のカレーパーティをやるということになり、バングラデシュ出身の千代鳥(チョードリ)さんが大活躍、特製カレーをみんなで味わいながら、カクテルを楽しみ、ギターと歌で大いに盛り上がりました!

千代鳥さんは同窓会理事(都立大24期 工業化学卒)で八雲クラブの運営委員ですが、地球市民クラブというNPOの代表でもあります。そのNPOのお友

達4人がお手伝いに来てくださり、「とうがんと海老のカレー」、「チキンと野菜のカレー」の2種類がふるまわれました。千代鳥さんのつくるカレーの特徴は、水を一切入れない、オリーブ油としょうがとニンニクとトマトをたっぷり使う、そして秘伝?の特製カレーパウダーだそうです。スパイシーでとってもおいしく、皆さんに大好評、大なべに2つ作りましたが、短時間で売り切れになってしまいました。ごちそうさま!!

というわけで楽しい夜のひとときを過ごしました。まだまだ、カフェバーは試行錯誤の段階ですが、これからも何かしら楽しいテーマやしかけを用意して、皆さんにフラッと来ていただける場所にしていきたいと思えます。

飛び入り歓迎、持ち込み歓迎、どんどん楽しいアイデアを出して参加してください。

お待ちしております。



(上)千代鳥さん(左)と池田さん(右)  
(右)カレーパーティーに集まった面々



- 八節会(体育会弓道部OB会)について

八節会は首都大学東京=東京都立大学体育会弓道部のOB会で、昭和34年の卒業生を第1期としています。

57年間にわたり、会員は450名を超えていますが、連絡がつくのは半数に満たず、所在確認が最大の課題でしょう。(特に個人情報保護法が浸透して以来、卒業生の情報が集め難くなりました。)

現役部員は、充実した成績を残してくれています。男女ともに東京都学生弓道連盟の2部リーグで健闘また、今年度、国公立大会では男女で団体&個人を制し完全アバック優勝。全関東学生選手権大会では並み居る強豪校の中で女子が団体3位に躍進し、部の歴史を塗り替えてくれました。

強豪私大のような有望選手のセレクションも無く、国立大のように人数がいるわけでもない首都大学が、それなりの成績を残せるのはなぜかと周囲から不思議がられることもあります。我々にもわかりません。八節会もOBとして現役を支援していますので、好成績の報告には、ただ嬉しい限りです。

この7月は有志で大阪へ遠征して、府大戦でOB戦を戦いましたが府大と当方で人数が合いませんので勝敗は度外視です。現役時代のイメージに身体がついて行かないことを互いに嘆きながら、親睦を深めました(写真は、府大でのOB戦の様子です)。

1983年卒業 大西多久二(八節会会長)



# 首都大学東京同窓会 会計報告

財務委員長 吉田 俊雄

## 第12期決算 (一般会計)

自 2015年8月1日 至 2016年7月31日

単位:円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	49,680,824	会報制作費	5,625,779
入会金	21,200,000	会報発送費	4,524,993
維持会費	6,723,000	会員情報管理費	2,921,900
新年会等参加費	650,000	会議費	1,330,079
預金利子	16,430	新年会等開催費	1,027,155
雑収入	46,000	通信費	372,103
繰入金	4,300,188	学生支援費	3,406,671
小計	32,935,618	事務費	504,444
(前年度繰越金を除く)		人件費	5,876,690
		八雲クラブ運営費	864,000
		八雲クラブ賃借料	2,280,000
		イベント費	311,442
		組織強化費	461,970
		雑費	223,319
		振込手数料等	827,311
		事務所使用料	378,336
		OA環境整備費	283,585
		入会促進費	1,350,888
		会費納入促進費	364,953
		予備費	0
		小計	32,935,618
		当年度過不足額(収入-支出)	0
		次年度繰越金	49,680,824
合計	82,616,442	合計	82,616,442

## 第13期予算 (一般会計)

自 2016年8月1日 至 2017年7月31日

単位:千円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	49,681	会報制作費	5,810
入会金	21,000	会報発送費	4,800
維持会費	7,005	会員情報管理費	2,880
新年会等参加費	1,858	会議費	1,455
預金利子	16	新年会等開催費	2,672
雑収入	100	通信費	450
繰入金	5,000	学生支援費	3,000
小計	34,979	事務費	500
(前年度繰越金を除く)		人件費	5,465
		八雲クラブ運営費	864
		八雲クラブ賃借料	2,280
		イベント費	400
		組織強化費	600
		雑費	70
		振込手数料等	800
		事務所使用料	390
		OA環境整備費	400
		入会促進費	1,300
		会費納入促進費	360
		予備費	483
		小計	34,979
		当年度過不足額(収入-支出)	0
		次年度繰越金	49,681
合計	84,660	合計	84,660

## 第12期決算 (特別会計)

自 2015年8月1日 至 2016年7月31日

単位:円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	7,241,292	払込票制作等	513,573
目的寄付	1,017,693	データベース改定	
維持寄付	808,420	一般会計への繰入金	4,300,188
維持寄付(終身)	2,473,000	小計	4,813,761
小計	4,299,113	当年度過不足額(収入-支出)	-514,648
		次年度繰越金	6,726,644
合計	11,540,405	合計	11,540,405

## 第13期予算 (特別会計)

自 2016年8月1日 至 2017年7月31日

単位:千円

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	6,727	払込票制作等	600
目的寄付	900	データベース改定	
維持寄付	1,000	一般会計への繰入金	5,000
維持寄付(終身)	3,100	小計	5,600
小計	5,000	当年度過不足額(収入-支出)	-600
		次年度繰越金	6,127
合計	11,727	合計	11,727

## 財産目録

(2016年7月31日現在)

単位:円

資産の部	
1	現金・預金
①	現金 手許在高 86,205
②	普通預金 106,316,343
	(内 基本金 50,000,000)
	みずほ銀行 南大沢支店 95,363,689
	三菱東京UFJ銀行 多摩センター支店 10,952,654
③	郵便振替口座
	首都大学東京同窓会 4,920
	小計 106,407,468
2	造作 八雲クラブ借室改修費用 0
3	投資有価証券 (株)都立大学同窓会サービス株式 (1,750株) 87,500,000
	資産合計 193,907,468
負債の部	
1	前受会費(繰越終身会費) 23,304,000
2	リース残高(積水リース株式会社) 238,548
	負債合計 23,542,548
	差引正味財産 170,364,920

(備考) 繰越終身会費(10年で償却受入れ)

(注)

繰越金内訳	
一般会計繰越金	49,680,824
特別会計繰越金	6,726,644
小計	56,407,468
基本金	50,000,000
合計	106,407,468

## 八雲クラブ特別会計第12期収支決算報告書

自 2015年8月1日 至 2016年7月31日

単位:円

収入の部		支出の部	
前年度より繰越金(A)	3,582,159	(今年度支出)	
(今年度収入)		印刷発送費	1,487,009
会員・会費収入	1,265,171	サロン運営費	356,709
サロン参加費	285,500	講師謝礼	120,000
ビジター利用料	457,730	人件費	336,000
雑収入(預金利子他)	585	交通費	82,064
一般会計助成金	864,000	通信費	63,600
小計(B)	2,872,986	清掃費	108,000
		手数料支払など	77,220
		雑費	91,359
		八雲クラブ委員会費	21,345
		振込手数料	2,592
		小計(C)	2,745,898
		今年度損益(D=B-C)	127,088
		次年度繰越金(E=A+D)	3,709,247
合計(A+B)	6,455,145	合計(C+E)	6,455,145

次年度繰越内訳	三井住友銀行渋谷支店	3,412,545
	神南郵便局振替口座	195,680
	手元現金	101,022
	資産合計	3,709,247
	未払金	
	負債合計	0
	次年度繰越金	3,709,247

会計監査の結果、上記の報告は適正であることを認めます。

2016年8月30日

監事 加藤 充子 ㊞  
同 君和田洋之 ㊞  
同 古川 順光 ㊞

貸借対照表

(2016年1月31日現在)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
	円		円
流動資産	31,868,352	流動負債	815,038
現金及び預金	31,868,352	未払金	9,638
固定資産	57,191,288	前受金	570,000
・有形固定資産	57,118,488	預り金	
建物	6,144,808	未払法人税等	235,400
土地	50,973,680	負債の部合計	815,038
・無形固定資産	72,800	純資産の部	
電話加入権	72,800	株主資本	88,244,602
		(資本金)	87,500,000
		資本金	87,500,000
		(利益剰余金)	744,602
		繰越利益剰余金	744,602
資産の部合計	89,059,640	負債及び純資産の部合計	89,059,640

貸借対照表注記事項

原価償却累計額 30,993,912円

販売費及び一般管理費

自2015年2月1日 至2016年1月31日

科目	金額
管理費	515,400 円
警備費	349,395
減価償却費	447,732
修繕費	23,760
事務用品費	0
消耗品費	0
水道光熱費	185,984
旅費交通費	84,328
手数料	87,426
租税公課	203,300
保険料	13,080
通信費	116,107
新聞図書費	
合計	2,026,512

損益計算書

自2015年2月1日 至2016年1月31日

単位：円

経常損益の部	
営業損益	金額
【純売上高】	
貸室収入	
売上総利益	2,280,000
【販売費及び一般管理費】	2,026,512
営業利益	253,488
営業外損益の部	
【営業外収益】	
受取利息	7,179
雑収入	7,179
経常利益	260,667
税引前当期純利益	260,667
法人税等	236,855
当期純利益	23,812
前期繰越利益	720,790
当期末処分利益	744,602

利益処分計算書

単位：円

【当期末処分利益】	720,790
【次期繰越利益】	744,602
上記の通りご報告申し上げます。	
2016年3月16日	
株式会社 都立大学同窓会サービス	
代表取締役	石橋 穠治
取締役	末光 正忠
取締役	横川 邦明
取締役	杉村 哲雄
取締役	河口 修

会計監査の結果、上記の報告は適正であることを認めます。

監査役 吉田 俊雄

監査役 松本 傳

首都大学東京同窓会・広報委員会 会報編集委員 (委員は五十音順)	
委員長	委員
黒川 信 (都28期・生物)	菅 清隆 (都17期・建築)
稲野 久智 (都54期・史学)	小原 弘道 (科03期・機械)
久崎 力 (都09期・電気)	齋藤 夕子 (医01期・地域)
関根 紀夫 (医01期・放射)	根谷 武彦 (都10期・化学)
藤田 貴男 (都44期・機械)	横山 英明 (都43期・化学)
編集委員長 野原 剛 (都04期・化学)	編集委員 村山 祥彦 (都05期・経済)
編集委員 加藤 充子 (都09期・経済)	

編集後記  
事務局長として広報委員の仲間に入れていただき驚きの毎日でした。事務局の仕事は毎日大変でしたが、広報も事務局の仕事とは違った意味で大変でした。原稿の依頼・催促・新企画の提案の仲立ち黒川委員長の補佐等、こまごまとした仕事の手配もあり、ほんの一部に首を突っ込んだだけで、編集とは大変な作業だと痛感しました。委員のみなさまのご協力、で何とか発行日に間に合いました。残るはミスがあるのでと不安で一杯です。記事の中に、大学の学部・学科再編成という大きな事柄ということで上野学長からコメントを寄せていただきました。これまでの学部・学科体制には(私個人に限らず)、ずっと違和感をもっていました。幸い、平成30年から改められるというので、理事長、学長のご努力に敬意を表するとともに、大学のこれからに大いに期待しています。(松浦知彦)

# 2017 (平成29) 年 首都大学東京同窓会 新年会・講演会

首都大学東京同窓会は、2017年の新春を迎えるにあたり、下記の通り新年会および講演会を開催致します。今回の講演会には、各界、各分野でご活躍の6万人を超える会員の中から、落語界で異才? 偉才を発揮されている立川寸志さん(本名:小田部信英 都立大38期・人文学科史学専攻卒)にご登場をお願いいたしました。新春らしくおめでたい落語「井戸の茶碗」の一幕と、落語の面白さ・楽しさがより深まる入門講座をお楽しみ頂きます。引き続きの新年会では、同期やゼミ、クラブやサークルなどの仲間との再会や、世代、分野を超えた新たな交流をお楽しみください。

是非、皆様お誘い合わせのうえご参加ください。

- ◆日 時 2017年1月29日(日) 受付開始 14時00分 開会 14時30分 終了 18時
- ◆会 場 明治記念館 東京都港区元赤坂2-2-23 ☎03-3403-1171
- ◆会 費 当日申込: 1名 8,000円(ご夫妻 15,000円)  
事前申込: 1名 7,500円(ご夫妻 14,000円)  
グループ事前申込: 5名以上1名7,000円

学部・大学院 卒業年次別事前申込(2006年以降の卒業の方)

卒業後 5年以内(卒業年次2011年3月~2016年3月) 1名5,000円

卒業後 6年~10年以内(卒業年次2006年3月~2010年3月) 1名5,500円

- ◆申込期限 グループでの申し込みの方は、2016(平成28)年12月20日までに団体参加者名簿をホームページよりダウンロードして名簿を作成し、事務局宛お送りください。

- ◆参加費納入期限 個人参加の方は同窓会報に同封された「新年会参加払込票」で、平成29年1月20日まで「ゆうちょ銀行(郵便局)」に納入ください。

グループでの参加の場合は、団体参加者名簿により別途個別にお送りする「払込票」により、お願いいたします。

なお、事前申込の方の名札を用意いたします。納入された参加費は欠席の場合でも返金をご容赦ください。※講演会のみのお席は無料です。

## ◆プログラム

- 14時30分~15時40分 「新春一席と講演《落語よもやま噺》」 出演 立川寸志  
寸志さんのプロフィール: 都立立川高校卒 1990年(平成2年)東京都立大人文学部人文学科史学専攻(日本近世史・峯岸賢太郎ゼミ)卒業。株式会社福武書店(現ベネッセコーポレーション)に入社。以降、出版社数社で20年間出版編集業に携わる。2011年8月一念発起して44歳で立川談四楼に入門。前座修行を経て2015年3月二ツ目に昇進。現在、寄席、落語会、自主公演などで活躍中。

- 16時~18時 新年会 懇親・賀詞交換

来賓として、法人理事長、学長、副学長、学部長ほかの皆様をお招きしております。



## ◆会場へは

JR(中央線・総武線)信濃町駅下車(出口は1カ所)徒歩5分、地下鉄(銀座・半蔵門・大江戸各線)青山一丁目駅2番出口徒歩8分、大江戸線国立競技場駅A1出口徒歩8分

※問合せ先: 首都大学東京同窓会事務局・イベント委員会 ☎042-670-7702 FAX 042-677-2894

E-メール: [tmu-al@tmu.ac.jp](mailto:tmu-al@tmu.ac.jp) 同窓会ホームページ: 「首都大東京同窓会」で検索を

TMU 第12号 2016年11月21日 発行

発行 首都大学東京同窓会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢1-1

直通 電話 042-670-7702

FAX 042-677-2894

大学 電話 042-677-1111(代)(内 2181)

電子メール [tmu-al@tmu.ac.jp](mailto:tmu-al@tmu.ac.jp)

ホームページ <http://www.comp.tmu.ac.jp/dousoukai/>

郵便振替口座 00150-0-426678

印刷 京浜印刷株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井4-7-3

TEL 03-3763-7321

FAX 03-3764-6839